

様式7

「学校」部門

河川基金助成事業

「機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり」

報告書

助成番号：2018 - 7212 - 003

北海道帯広市立豊成小学校

校長 氏名 沼田 拓己

平成30年度

評価項目

学校部門(河川教育に関する実践的研究)

申請者所属	帯広市立豊成小学校
申請者代表	沼田 拓己

研究の背景を記載してください。(200文字以内)(必須)

本校は、校舎裏に幅2mほどの「機関庫の川」が流れており、学習材として日常的に川とふれ合える環境にある。また、自らの飲料水である札内川に流れ込み、昔はホタルが生息していたとの話もあることから、川の環境維持やホタルが棲める環境の再生に興味関心を抱いている児童が多い。しかし、それらが自分達の生活にとってどれだけ大切なものであり、どのように関わっていかなければならないのかを考え、行動できる児童は少ない。

文字数 200

研究の目的を記載してください。(200文字以内)(必須)

キャリア教育を軸とした「総合的な学習の時間」での「機関庫の川」調査活動、及び、環境維持・改善のための外来生物の駆除活動とその有効活用、さらには、地域や行政に向けた学習の成果の発表会や啓発活動を通して、自分達の生活とのつながりを実感し、この恵まれた環境を主体的に守ろうとする子どもを育成すると共に、文教ゾーンや地域人材の協力を得ることで、地域全体で環境問題に向き合う基盤づくりをすることが目的である。

文字数 200

研究仮説を記載してください。(200文字以内)(必須)

仮説1:身近な川を学習材とし、課題解決のために学年の発達段階に合った役割を担うことで、6年間の見通しをもって川の学習を進めることができると共に、「自分達の大切な川を守る」という自覚と責任が芽生えるであろう。
仮説2:キャリア教育の視点を取り入れた河川教育を進めることで、自分達の生活とのつながりを考え、川の環境保全のために地域と協力して課題と向き合うことのできる子どもを育成することができるとであろう。

文字数 200

検証計画を記載してください。(200文字以内)(必須)

5月:「機関庫の川」と「札内川」の調査をして課題把握をする。6月～7月:環境改善のためにウチダザリガニの駆除や清掃を行う。7月:「ホタル観賞会」で学習の成果の発表し、保護者や地域と課題を共有する。8月～10月:川の環境保全のための啓発活動を行う。11月～9月:駆除したザリガニで堆肥を作り、野菜栽培に活用することで命のつながりを考える。6月～3月:環境に携わる方々から話を聞き、自分の考えを深める。

文字数 200

【河川管理者との連携】

③-3 河川管理者との連携状況(200文字以内)(必須)

- ・帯広開発建設部 治水課(札内川の観察と水質調査を行う際に講師としてお世話になります。)
- ・特定非営利活動法人 帯広NPO28サポートセンター(機関庫の川の水質調査を行う際に講師としてお世話になります。)
- ・十勝多自然ネット(機関庫川の観察と、駆除したウチダザリガニを調理し、試食する際に講師としてお世話になります。)

所属	①帯広開発建設部 治水課 ②特定非営利活動法人帯広NPO28サポートセンター ③十勝多自然ネット	担当者氏名	①天羽 淳さん ②千葉 利光さん ③野村 真也さん
----	--	-------	---------------------------------

文字数 161

助成番号	助成事業名			学校名		
2018-7212-003	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり			帯広市立豊成小学校		
校長名	沼田 拓己	担当教諭名		小林 弘幸		
過去の助成実績	(なし) あり [助成番号: 助成事業名:]					
キーワード	自然とのふれあい・生物観察・駆除活動・川との安全なかかわり方					
対象児童生徒	高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (1年 123名)					
対象河川名	活動場所の指定状況		(なし) 子どもの水辺 水辺の楽校			
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ						
テーマ	: 機関庫の川の生き物に会いに行こう					
ねらい	: 全校「自分達の生活とのつながりを実感し、この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」 学年「機関庫の川に棲む生き物や自然と主体的にかかわる」					
評価の観点	: 機関庫の川の生き物や自然と主体的にかかわる力・観察して感じたことを絵や文で表現する力					
活動時期	: 4月～10月					
活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習 (生活科)	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の活動時間数	時間	12時間	時間	時間	時間	12時間
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	(外部高校)	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関 (博物館、資料館) 等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他
支援概要	・50名ほどのボランティア学生が、活動時に子どもたちのリーダーとなり、生き物とのかかわり方や安全指導等をして頂いています。(帯広北高等学校の生徒さん)					
活動成果	発表形態			成果作品		
	(学級単位)	学年単位	学校全体	・活動の感想を絵や文で表現し、お礼の手紙として渡している。 ・観察記録を教室掲示で発表。		
安全対策に関する課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・学年を2つに分け、たくさんの高校生にもついて頂いて子どもたちを見守るようにしているが、興奮してはしゃぐ子どもたちもいることから、事前の安全指導をさらに徹底する必要がある。 ・北海道は夏場でも天気が悪いと気温が低く、肌寒く感じるがあるので、天気予報をしっかりと確認することや服装の確認、臨機応変な時間の短縮などが必要。 						
活動の成果と今後の課題・展開						
<p>○高校生と一緒に活動することで、安全面の確保が十分にできた。また、一人一人が川とのかかわり方、生き物の名前や捕り方等を効率的に学習することができ、子どもたちの興味・関心にもつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な活動となるために外部の人材活用は必須だが、初対面の人との活動、しかも相手が高校生ということもあり、前半は、コミュニケーションがうまくとれない様子が見受けられた。充実した時間とするためにも、開会式 (対面の場面) の工夫が必要だと感じた。 ・網などの道具を使い方や生き物が棲んでいる場所などを高校生に教わりながら、知識や技術の向上が見られたが、捕ることが目的となって「観察」や「思考」の視点が薄れてしまっていたので、観察する時間の確保や考察につながる視点をしっかりとらせて活動するようにしたい。 ・川や生き物に興味をもち、積極的にかかわりたいという気持ちの高まりに反し、安全に活動できる環境としての整備には改善の余地がある。行政とも積極的に情報発信を行い、環境改善に努めていきたい。 						
活動内容と実施時期 (主な活動を2つのみ記入)						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	体験活動系	川遊び	7月	
			生物調査系	水生昆虫・魚類	8月	

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P. 47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

助成番号	助成事業名		学校名			
2018-7212-003	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり		帯広市立豊成小学校			
校長名	沼田 拓己	担当教諭名	小林 弘幸			
過去の助成実績	(なし) あり [助成番号: 助成事業名:]					
キーワード	自然とのふれあい・生物観察・駆除活動・川との安全なかかわり方					
対象児童生徒	高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (2年 146名)					
対象河川名	機関庫の川	活動場所の指定状況	(なし) 子どもの水辺 水辺の楽校			
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ						
テーマ	: 生き物たんけんに出かけよう					
ねらい	: 全校「自分達の生活とのつながりを実感し、この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」 学年「機関庫の川に棲む生き物や自然と主体的にかかわり、飼育・観察を行う」					
評価の観点	: ルールや安全に気を付けて、周囲と協力しながら機関庫の川の生き物や自然と主体的にかかわる力 観察して感じたことを絵や文で表現する力					
活動時期	: 5月～11月					
活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習 (生活科)	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の活動時間数	時間	17時間	時間	時間	時間	17時間
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	(外部高校)	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	(行政機関) (博物館、資料館) 等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他
支援概要	<ul style="list-style-type: none"> ・50名ほどのボランティア学生が、活動時に子どもたちのリーダーとなり、生き物とのかわり方や安全指導等をして頂いています。(帯広北高等学校の生徒さん) ・外来種 (ウチダザリガニ) について教えて頂いています。(エコロジーパーク) 					
活動成果	発表形態			成果作品		
	(学級単位)	学年単位	学校全体	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の感想を絵や文で表現し、お礼の手紙として渡している。 ・観察記録を教室掲示で発表。 		
対外発表 (お世話になった高校生)						
安全対策に関する課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・学年を2つに分け、たくさんの高校生にもついて頂いて子どもたちを見守るようにしていますが、興奮してはしゃぐ子どもたちもいることから、事前の安全指導をさらに徹底する必要がある。 ・北海道は、夏場でも天気が悪いと気温が低く肌寒く感じることもあるので、天気予報をしっかりと確認することや服装の確認、臨機応変な時間の短縮などが必要。 						
活動の成果と今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> ○1年生同様、高校生と一緒に活動することで、安全面の確保が十分にできた。2年目ということもあり、活動の目的を把握し、積極的に川や生き物とのかわりを楽しむ様子が見られた。 ・学校行事とお手伝い頂いている外部機関の都合が合わず、外来種について学ぶ前に川の学習を行うことになったため、駆除の必要性を感じながらのザリガニ捕獲とはならなかった。早めの日程調整と天候に左右されない計画的な調整を意識したい。 ・1年生同様、捕ることが目的となって「観察」や「思考」の視点が薄れてしまっていたので、観察する時間の確保や考察につながる視点をしっかりともたせて活動するようにする。また、観察用ジオラマ水槽をもっと有効活用し、生き物の成長や変化を感じられるように整備を進めていく。 						
活動内容と実施時期 (主な活動を2つのみ記入)						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	体験活動系	川遊び	7月	
			生物調査系	水生生物・魚類	8月	

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P. 47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

助成番号	助成事業名		学校名			
2018-7212-003	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり		帯広市立豊成小学校			
校長名	沼田 拓己	担当教諭名	小林 弘幸			
過去の助成実績	(なし) あり [助成番号: 助成事業名:]					
キーワード	水質調査・生物調査・ホタルを呼び戻す・環境保全活動・地域行政への啓発活動					
対象児童生徒	高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (3年 112名)					
対象河川名	機関庫の川・札内川	活動場所の指定状況	(なし) 子どもの水辺 水辺の楽校			
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ						
テーマ	: 機関庫の川と友だちになろう					
ねらい	: 全校「自分達の生活とのつながりを実感し、この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」 学年「調査活動から見えた課題を地域行政に発信することで、川とのかかわり方について考える」					
評価の観点	: 川の現状を把握し、課題解決に向けて考える力・調査をまとめ、課題解決に向けて効果的に発信する力					
活動時期	: 5月～1月					
活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習 ()	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の活動時間数	52時間	時間	時間	時間	時間	52時間
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関 (博物館、資料館) 等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他
支援概要	・水質調査時の指導 ・駆除活動の補助 ・ホタル観賞会の運営補助 ・情報提供 ・ジオラマ水槽のメンテナンス等、様々な分野で支援して頂いています。 (帯広開発建設部・帯広NPOセンター・小さな大自然の店・十勝多自然ネット・帯広農業高等学校)					
活動成果	発表形態			成果作品		
	学級単位	学年単位	学校全体	・ホタル観賞会で地域や全校児童に向けて学習の成果を発表する。 ・学習発表会で啓発活動をする。 ・行政に向けての課題提示をする。		
	対外発表 (地域 教育委員会等)					
安全対策に関する課題						
・十勝多自然ネットの方々にご協力頂いて、ウチダザリガニの駆除活動、及び試食を行った。試食に関しては、事前のアレルギ調査を実施しているものの、不安の声も聞こえてくる。今後、検討していく必要がある。 ・札内川での調査活動は炎天下の日に行われ、日陰も少なかったため、水筒の持参と帽子の着用等を指示したが、体調を崩す子が数名見受けられた。実施時刻を早めたり、時間の短縮を行ったりするなど、対応策を考えたい。						
○子どもたちの気付きから授業を展開することができた。自分達の発見をどんどん追究することができるので、川への関心や「自分達の川」という意識が高まった。 ・河川財団の助成金で購入した「アクアスコープ」「薄型観察用水槽」等の道具を上手に使いこなせる児童が少なかった。せつかくの道具を有効に使うことができるようにしていきたい。 ・今回は、「機関庫の川に再びホタルを・・・」というもう一つのテーマをもって活動に臨んだが、子どもたちの調査によると、機関庫の川はとでも水質が良く、ホタルが棲むにはきれいすぎるという結果がでた。目指す目標と逆行する結果となったため、目的としての意味が薄らいでしまった。次年度は、水質ではなく、生態系に焦点を絞ることも視野に入れて計画していきたい。 ・学習の発表の場面としては、「学年」→「地域」→「行政」と、充実した活動となった。今後は、発表の形式をさらに工夫し、対象に合わせた発信方法を考えさせたい。						
活動内容と実施時期 (主な活動を2つのみ記入)						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	水質調査系	バックスト・生物指標	7月	
			生物調査系	水生生物・生き物環境	8月	

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P. 47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

助成番号	助成事業名			学校名		
2018-7212-003	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり			帯広市立豊成小学校		
校長名	沼田 拓己	担当教諭名		小林 弘幸		
過去の助成実績	(なし) あり [助成番号: 助成事業名:]					
キーワード	川と生活との関わり, 水源, 上下水場見学					
対象児童生徒	高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (4年 132名)					
対象河川名	機関庫の川 札内川・十勝川	活動場所の指定状況		(なし) 子どもの水辺 水辺の楽校		
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ						
テーマ	: 水のゆくえ					
ねらい	: 全校「自分達の生活とのつながりを実感し, この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」 学年「水質の維持管理について, 自分達の生活と関連付けて考える」					
評価の観点	: 調べたことから課題を見出し, 自分達の生活と関連付けて考える力 得た情報を自分なりの言葉でまとめる力					
活動時期	: 6月~9月					
活動形態	総合的な 学習の時間	各教科学習 (社会科)	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の 活動時間数	時間	20時間	時間	時間	時間	20時間
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	(行政機関) (博物館, 資料館) 等		関係団体 (漁協, 農協) 等		企業	その他
支援概要	・下水処理場, 浄水場の施設見学をさせて頂いています。 (稲田浄水場・十勝川流域下水浄化センター・帯広市役所水道課)					
活動成果	発表形態			成果作品		
	(学級単位)	学年単位	学校全体	・新聞にまとめて交流する。		
対外発表 ()						
安全対策に関する課題						
・特になし。 (4年生は, 川での直接的な活動がないため)						
活動の成果と今後の課題・展開						
○自分達が活動してきた川のすぐそばに浄水場や下水処理場があることから, より身近に川を感じる事ができた。 また, 環境汚染について関心をもつ児童が増加した。 ・浄水場見学の際に, すぐ横に札内川が流れているので, 取水口等の確認をすれば良かった。また, 札内川や十勝川と機関庫の川との合流地点を見学するなど, 機関庫の川が自分達の飲料水に直結していることが, より実感できる体験を取り入れていきたい。 ・災害により, 昨年度より水源の見学が学習のコースから外れているので, 復興状況を確認し, 安全が確認でき次第学習コースに組み入れることを検討していきたい。						
活動内容と実施時期 (主な活動を2つのみ記入)						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録 する活動分野	学校部門	教育活動	地学調査系	水の循環	6月	
			地理・現代社会系	飲料水の供給	7月	

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P. 47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

助成番号	助成事業名			学校名		
2018-7212-003	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり			帯広市立豊成小学校		
校長名	沼田 拓己	担当教諭名		小林 弘幸		
過去の助成実績	(なし) あり [助成番号: 助成事業名:]					
キーワード	命のつながり, ザリガニ堆肥検証実験, 自然の活用					
対象児童生徒	高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (5年 118名)					
対象河川名	機関庫の川	活動場所の指定状況		(なし) 子どもの水辺 水辺の楽校		
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ						
テーマ	ザリガニ堆肥の効果を検証しよう					
ねらい	全校「自分達の生活とのつながりを実感し, この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」 学年「予想や仮説, 実験の結果を統計的にまとめ, 命のつながり, 環境とのつながりを感じる」					
評価の観点	実験結果を統計的にまとめる力・実験結果をもとにザリガニ堆肥の効果的な活用法を考える力					
活動時期	4月~8月					
活動形態	総合的な 学習の時間	各教科学習 (理科)	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の 活動時間数	12時間	4時間	時間	時間	時間	16時間
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関(博物館、資料館)等		関係団体(漁協、農協)等		企業	その他
支援概要	<ul style="list-style-type: none"> ザリガニ堆肥の効果や活用法を専門的視点から教えて頂いています。 十勝農業の課題や川(水)との関わりについて教えて頂いています。 (玉ねぎ農家中村氏・ごぼう農家和田氏・ますやパン杉山氏・かわにし農協・帯広市役所農政課)					
活動成果	発表形態			成果作品		
	学級単位 対外発表 ()	学年単位	学校全体	・検証結果を全校で共有し, 学校農園での栽培活動に生かしてもらう。		
安全対策に関する課題						
・特になし。 (5年生は, 川での直接的な活動がないため)						
活動の成果と今後の課題・展開						
○ザリガニ堆肥の検証を行うことで, 川の生態系への関心と命のつながりを実感することができた。また, 外来種やゴミなどの環境に対する関心も高まった。 ・インゲン豆の発芽実験の際に, 並行してザリガニ堆肥の検証実験を行った。検証実験は成功だったが, 検体が少なく, また学年としての取組となったため, 主体的な活動とはなりにくかった。実験の意義を含め, 事前指導や物理的な環境を整えることで, より充実した活動としていきたい。 ・地域の方々には, 活動の意義をご理解頂き, 共通理解のもとご協力頂いている。しかし, 河川教育とは間接的なかわりの部分が多く, 視点が薄れてしまうことも少なくはない。さらに密度の濃い打合せを行うことで, 視点を明確にし, 実生活とのつながりがより実感できるように工夫していきたい。						
活動内容と実施時期 (主な活動を2つのみ記入)						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	生物調査系	水生昆虫・生き物環境	6月	
			その他系	自然の活用	7月	

※データベースに登録する活動分野は, 助成事業実施の手引き P. 47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

助成番号	助成事業名			学校名		
2018-7212-003	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり			帯広市立豊成小学校		
校長名	沼田 拓己	担当教諭名		小林 弘幸		
過去の助成実績	(なし) あり [助成番号: 助成事業名:]					
キーワード	命のつながり, ザリガニ堆肥づくり, 自然の活用					
対象児童生徒	高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (6年 120名)					
対象河川名	機関庫の川	活動場所の指定状況		(なし) 子どもの水辺 水辺の楽校		
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ						
テーマ	: ザリガニ堆肥を作ろう					
ねらい	: 全校「自分達の生活とのつながりを実感し, この恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む」 学年「ザリガニ堆肥作りを通して, 環境保全と命の循環という視点をもつ」					
評価の観点	: 話の内容から目的に合ったものを精査し, 活用する力。自然の力強さや命の尊さを感じるとる力					
活動時期	: 7月~3月					
活動形態	総合的な 学習の時間	各教科学習 (理科)	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の 活動時間数	1時間	4時間	時間	時間	時間	5時間
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	(専門家等)
河川管理者	行政機関 (博物館、資料館) 等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他
支援概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニ堆肥の作り方を教えて頂いています。(帯広北高等学校 濱先生) ・土作りのプロから, 堆肥の有効性を学んでいます。(長いも農家 斉藤氏) 					
活動成果	発表形態			成果作品		
	学級単位 対外発表 ()	学年単位	(学校全体)	・ザリガニ堆肥の贈呈式を全校集会で 行います。		
安全対策に関する課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 (6年生は, 川での直接的な活動がないため) 						
活動の成果と今後の課題・展開						
<p>○堆肥作りを通して, 6年間の河川学習の意義を振り返ることができた。また, これらの活動の目的を下級生にしっかりと伝えていかなければならないという責任感が芽生えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下級生が駆除したウチダザリガニを堆肥化する取組は, 子どもたちに命の尊さを考えさせ, 責任と目的を実感することができる活動となっている。しかし, 過去5年間を振り返り, 豊成小学校の河川学習の意義や目的, 命をつなげる責任等を自覚させる時間としては, 足りない感もある。時数増は難しいので, その他の場面でも意識を高められるようなはたらきかけをしていく必要がある。 ・環境保全の視点を学習の内容だけではなく, 日常の生活にまで広げて考えられるようになると, さらによいと感じた。外部講師 (長いも農家さん) には, ザリガニ堆肥の有効性にもふれた講話をして頂いているので, 子どもたちに身近な農業とのかかわりから環境問題にも話題を広げてもらうなどして考える機会を設けていきたい。 						
活動内容と実施時期 (主な活動を2つのみ記入)						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	生物調査系	水生昆虫・生き物環境	11月	
			その他系	自然の活用	11月	

※データベースに登録する活動分野は, 助成事業実施の手引き P. 47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり			学校名		帯広市立豊成小学校		助成番号		2018-7212 -003	
2.単元名												
3.目標												
4.実施学年 人数		第1学年 123人										
5.場所		機関庫の川 (帯広市清流西1丁目1番地1 帯広市立豊成小学校校地内)										
6.単元構想 (総時間数)												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
一 学 年	がっこうとともだち(2)		ひとつぶのたねから①(4)		いきものとなかよし(4)		ひとつぶのたねから②(2)					
	機関庫の川のまわりを観察し、季節によって変化する川や生き物の様子に気付かせる。川の学習への意欲付けとなるようにする。		ザリガニ堆肥を混ぜた土を活用し、命が次の命につながることを実感させる。この後の川の学習でとったザリガニを堆肥化することとつながるようにする。		機関庫の川に棲む生き物とふれあい、その特徴や生態などに興味・関心をもつ。		堆肥を活用して栽培した枝豆を食べることで、命のつながりと感謝の気持ちをもって食べることの大切さを学ぶ。					
主 な 学 習 活 動	【課題設定】 ●機関庫の川周辺を観察し、草花や生き物の様子を知る。 ●どんなことを知りたいのか事前に話し合い、活動の見通しをもつ。	【調査活動】 ●冬から目覚めた植物や生物を観察することで、川の様子にも関心をもつ。 ●捕った生き物や摘んだ植物を記録する。	【まとめる】 ●調査で得た情報を記録用紙にまとめて学級に掲示し、お互いの視点を共有する。(川の学習に向けての準備)	【課題設定】 ★6年生が作ったザリガニ堆肥が入った土で枝豆作りをする。 ★今後、自分達もザリガニの駆除活動を行うことを知る。	【栽培活動】 ★ザリガニの命が枝豆の生長に役立つことを体感するとともに、その命をしっかりとつなげられるようにお世話をする。	【課題設定】 ●機関庫の川にはどんな生き物がいるのか。どんなところに棲んでいるのか。 ●安全に川とかかわるにはどうするべきか。	【調査活動】 ●帯広北高校の生徒さんに教えていただきながら、川の生き物を捕まえたり、川の様子を観察したりする。	【まとめる】 ●川の学習で発見したこと、気付いたことを北高生へのお礼の手紙として、絵や文で表現する。	【課題設定】 ★ザリガニ堆肥が、枝豆の生長を助け、自分達が食べることで栄養となり、命がつながっていることを知る。	【試食】 ★枝豆をゆで、実際に食することで、命のありがたさを感じ、日常の食についても考える。		
	●季節によって変化する川や生き物に興味・関心をもって学習計画を立てることができる。	●周囲と協力しながら、主体的に川や生き物とかかわろうとしている。	●生き物や自然の様子を絵や文で表現することができる。 ●友達のよい視点を次に生かそうとしている。	★ザリガニ堆肥を使って栽培するという目的意識をしっかりとつてきている。	★目的を理解し、責任をもってお世話をすることができる。 ★生長の過程をしっかりと観察し、変化に気付くことができる。	●機関庫の川に興味・関心をもってどんな生き物を捕まえるか、進んで学習計画を立てることができる。	●周囲と協力しながら、主体的に川や生き物とかかわることができる。 ●安全に配慮し、ルールを守って活動することができる。	●川の学習で発見したことや気付いたことを北高生へのお礼の手紙に絵が文で書き表すことができる	★ザリガニ堆肥や水やりのお世話など、枝豆の生長に必要なことを振り返り考えることができる。	★ザリガニ堆肥で育てた枝豆を食することで命のつながりを感じ、感謝の気持ちをもつことができる。		

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

アドバンス 活動報告書

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2018-7212-003
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

7.実際にいった単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
一 学 年	がっこうとともだち(2)		ひとつぶのたねから①(4)			いきものとなかよし(4)		ひとつぶのたねから②(2)			
	<p>校内を流れる機関庫の川で、川の周りの植物や生き物の様子を観察して今後の活動に向けての意欲を高めた。(まだ気温が低く雪が残る時期のため、川の周囲の観察にとどめた。)</p>		<p>ザリガニ堆肥が混ぜ込まれた土壌を活用して野菜作りを行った。(ザリガニ駆除活動と野菜作りがつながるように配慮しながら授業を進めた。)</p>			<p>帯広北高校の生徒さんと一緒に機関庫の川に入り、川に棲む生き物とふれあったり、川での活動を楽しんだりした。</p>		<p>ザリガニ堆肥を活用して栽培した枝豆を食べることで、命のつながりを実感し、自然(川)や生き物への感謝の気持ちを育んだ。</p>			
	<p>【課題設定】 ●春が来て、川の周りの様子がどのように変わったのかを観察するという目的をもたせて学習に臨んだ。</p>	<p>【調査活動】 ●川の周りの植物や生き物などを観察した。雪に覆われていた世界と一変した様子に子どもたちも興味をもって積極的に活動していた。</p>	<p>【まとめる】 ●観察した様子を絵と文章で表現した。形や色、におい、数など、丁寧に観察したことをまとめることができた。</p>	<p>【課題設定】 ★ザリガニ堆肥が混ぜ込まれた土壌で野菜を栽培することを意識させることで、川と栽培活動とのつながりを感じることができた。</p>	<p>【栽培活動】 ★アサガオの観察記録を取りながら、枝豆の栽培を行った。</p>	<p>【課題設定】 ●高校生と一緒に人のかかわり、川とのかかわりを学ぶという目的をもって活動に臨んだ。</p>	<p>【調査活動】 ●高校生一人に対して5人程度のグループに分かれて、水生生物の観察を行った。時間の経過とともに、子どもたちの積極性が増していった。</p>	<p>【まとめる】 ●お世話になった高校生に感謝の気持ちと学んだことを記した手紙を書くことでまとめた。</p>	<p>【課題設定】 ★高校生と捕獲したウチダザリガニが、堆肥として枝豆の生長に活用されていることを確認することで命のつながり、川とのかかわりを認識した。</p>	<p>【試食】 ★枝豆をゆでて給食時間に試食した。命のつながりを感じながら、感謝の気持ちをもって食べていた。</p>	
											

8.成果と課題

- 高校生と一緒に活動してもらうことで、より安全に川とのかかわり方や生き物に関する知識を学ぶことができた。
- 校地内に川が流れているので、季節ごとに変化する川の様子も感じる事ができた。また、移動時間も短縮できるので、より充実した活動となった。
- 最初は、川や生き物とかかわることに躊躇していた子どもたちも積極的にかかわろうとする姿が見られるようになった。
- ▲1年生が活動するにあたっての河川環境整備としては、もう少し丁寧に整備する必要がある。

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり			学校名	帯広市立豊成小学校			助成番号	2018-7212 -003				
2.単元名													
3.目標													
4.実施学年 人数	2学年 146人												
5.場所	機関庫の川 (帯広市清流西1丁目1番地1 帯広市立豊成小学校校地内)												
6.単元構想 (総時間数)	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
二学年	おいしい野菜をそだてよう①(3)		みんなきている(10)				おいしい野菜をそだてよう②(4)						
	ザリガニ堆肥を混ぜた土を活用し、個々が自分の好きな野菜を育てる。これから駆除するザリガニの命を活用しているという意識をもたせる。		ルールや安全を守りながら、生き物の観察を行う。とれた魚やどじょうは、ジオラマ水槽で飼育し、観察する。外来種を処分することの目的をはっきりさせることを大切にする。				堆肥を活用して栽培した野菜を食べることで、命のつながりと感謝の気持ちをもって食べることの大切さを学ぶ。						
主な学習活動	【課題設定】 ●6年生が作ったザリガニ堆肥が入った土で野菜作りをする。 ●ザリガニ駆除にむけて意識を高める。		【栽培活動】 ●ザリガニの命が野菜の生長に役立つことを体感するとともに、その命をしっかりとつなげられるようにお世話をする。		【課題設定】 ★機関庫の川にはどんな生き物がいるのか。どんなところに棲んでいるのか。 ★外来種の駆除を目的に活動計画を立てる。		【調査活動】 ★帯広北高校の生徒さんに教えて頂きながら、川の生き物を捕まえたり、川の様子を観察したりする。 ★外来種の駆除を行う。		【まとめる】 ★川の学習で発見したことや気付いたことを北高生へのお礼の手紙として、絵や文で表現する。 ★捕った生き物をジオラマ水槽で飼育し、観察記録をつける。		【課題設定】 ●ザリガニ堆肥が、野菜の生長を助け、自分達が食べることで栄養となり、ザリガニの命が繋がっていることを知る。		【試食】 ●野菜を実際に食することで、命のありがたさを感じ、日常の食についても考える。
	評価項目	●ザリガニ堆肥を使った野菜作りに向けて、明確な目的意識をもつことができる。 ●駆除の目的を理解することができる。		●目的を理解し、責任をもってお世話をすることができる。 ●生長の過程をしっかりと観察し、変化に気付き記録することができる。		★機関庫の川の生き物に興味・関心をもって計画を立てることができる。 ★駆除の目的を理解することができる。		★北高の生徒さんの指示に従い、主体的に活動することができる。 ★安全に気を付け、目的をもって活動することができる。		★自分の気付きを絵や文で表現することができる。 ★捕った生き物に興味・関心をもって継続した観察をすることができる。		●ザリガニ堆肥や水やりのお世話など、野菜の生長に必要なことを振り返り考えることができる。 ●命のつながりについて考えようとしている。	

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

アドバンス 活動報告書

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2018-7212-003
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

7.実際にいった単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
二 学 年	<p style="text-align: center;">おいしい野さいをそだてよう①(3)</p> <p>ザリガニ堆肥を混ぜ込んだ土を活用し、個々が自分の好きな野菜を育てた。(ピーマン・トマト等)</p>			<p style="text-align: center;">みんなきている(10)</p> <p>帯広北高校の生徒と一緒に機関庫の川で生き物の観察を行った。捕った魚等は、ジオラマ水槽に入れ、観察した。</p>			<p style="text-align: center;">おいしい野さいをそだてよう②(4)</p> <p>ザリガニ堆肥を活用して野菜を育てながら観察記録をとった。育てた野菜は、各自持ち帰り、調理してもらって食べることで命のつながりを実感した。</p>					
	<p>【課題設定】 ●ザリガニ堆肥が混ぜ込まれた土壌で野菜を栽培することを意識させることで、川と栽培活動とのつながりを感じることができた。</p>	<p>【栽培活動】 ●生長の様子を記録しながら、ザリガニ堆肥の栄養を吸収しながら生長していることを実感することができた。</p>	<p>【課題設定】 ★川での活動を行う上でのルールやマナーや高校生とのかわり、生き物の観察などを目的として活動に臨んだ。</p>	<p>【調査活動】 ★高校生と一緒に水生生物の観察を行った。助成金で購入した観察道具を使い、有意義な活動となった。</p>	<p>【まとめる】 ★捕獲した生き物は、ジオラマ水槽に入れ、継続して観察を行った。</p>	<p>【課題設定】 ●ザリガニ堆肥を活用した土で育てた野菜だということを意識しながら観察を行った。</p>	<p>【試食】 ●各家庭に持ち帰り、調理して食べることで命のつながりを実感することができた。</p>					

8.成果と課題

- 1年生と同様、高校生と一緒に活動することで、安全面、内容ともに行き届いた指導が実現している。
- 1年前と比べると川にも慣れ、積極的質問したり活動したりする姿が見られるようになった。
- ▲生き物と主体的にかかわる姿は見られるようになったが、「観察」や「思考」の視点が薄れてしまった感がある。ジオラマ水槽や観察用ミニ水槽等を活用し、「観察」「思考」の時間を十分に確保したい。

アドバンス 活動報告書

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり		学校名	帯広市立豊成小学校		助成番号	2018-7212 -003											
2.単元名																		
3.目標																		
4.実施学年 人数	第3学年 112人																	
5.場所	機関庫の川 (帯広市清流西1丁目1番地1 帯広市立豊成小学校校地内) 札内川 (愛国町 稲田浄水場横河川敷)																	
6.単元構想 (総時間数)	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2						
三 学 年	機関庫の川と友だち①(13)		機関庫の川と友だち②(12)				機関庫の川のまとめ(16)											
	機関庫の川の調査結果をもとに、課題解決に向けた計画を立てる。		グループに分かれ、環境改善策を実施する。				機関庫の川の調査と自分達で取り組んだ課題解決策の結果をまとめ、教員委員会へ課題提示を行う。機関庫の川の現状と自分達で取り組んだ活動の報告と自分達では対応できない問題をお願いする。											
主 な 学 習 活 動	【課題設定】 ●札内川と機関庫の川を比較検証し、川の現状と今後について考える。		【調査活動】 ●水質調査、環境調査、生物調査等を行う。		【まとめる】 ●調査結果を参考に自分達の見解をまとめ、保護者や地域に発信する。		【課題設定】 ★機関庫の川の調査結果を受け、環境保全に向けて自分達にできることを考える。		【準備作業】 ★機関庫の川の環境保全活動実施に向けて、グループ毎に準備を進める。		【実施する】 ★機関庫の川の環境保全に向けて、グループ毎に計画したことを実施する。		【課題設定】 ●機関庫の川の保全活動を通してわかったこと、感じたこと、課題等を見出す。		【まとめる】 ●機関庫の川の活動のまとめを行うとともに、自分達では課題解決につながらなかった部分を挙げ、地域や行政とともに考える。		【問題提起】 ●機関庫の川の現状について調べたことや行った活動の報告と、残された課題解決に向けて行政をお願いしたことを帯広市教育委員会の方に向けて発信する。	
	【課題設定】 ●機関庫の川にホタルを呼び戻すために必要なことを川の現状をもとに考える。		【調べ学習】 ●ホタルの生態を調べ、繁殖に必要な条件を調べる。		【まとめる】 ●川の現状からホタル復活に向けて自分達がすべきことをまとめて地域にも呼び掛ける。													
評 価 項 目	●機関庫の川に興味関心をもち、調査活動に対しての意欲を高めている。		●各種調査活動に目的意識をもって取り組み、自分なりの見解をもつことができる。		●調査活動からわかったことを自分なりの見解を加えながらまとめることができる。		★機関庫の川の調査活動からわかったことをもとに、その環境を維持・改善する方法を考えようとしている。		★機関庫の川の調査活動から課題を見出し、自分達にできることをグループ毎に考えとともに、実施可能な方法を精査することができる。		★自分達にできることを見極め、環境保全に向けて主体的に活動することができる。		●調査活動と環境保全活動の経験から、さらなる課題を見出そうとしている。		●調査活動と環境保全活動から見出した課題解決に向け、個人でできることと地域と共に考えるべきことをまとめることができる。		●まとめた課題を地域や行政に向けて、問題提起することができる。	
	●ホタルを呼び戻す活動に目的意識をもつことができる。		●ホタルの生態について目的を理解して調べ学習に臨んでいる。		●保護者や地域に向けて、機関庫の川の実態やホタルの復活に向けての取組を発表することができる。													

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

アドバンス 活動報告書

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2018-7212-003
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

7.実際にいった単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
三 学 年	機関庫の川と友だち①(13)			機関庫の川と友だち②(12)			機関庫の川のまとめ(16)				
	機関庫の川を調査して課題を見つけ、解決に向けての計画を立てた。			1学期に立てた環境改善計画をグループごとに実施した。			機関庫の川の調査結果と自分達で取り組んだ環境改善策をまとめ、教育委員会へ向けて問題提起を行った。(子どもたちの気付きから生まれた課題をもとに授業が展開されるように配慮した。)				
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 清流の里をホタルの里に(11) 機関庫の川にホタルを復活させるために「ホタル観賞会」で機関庫の川の現状と課題を地域に発信した。 </div> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【課題設定】 ●札内川の調査活動を行うことで、機関庫の川にも興味をもち、これからの活動に向けての意欲付けをすることができた。</p> </div> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【調査活動】 ●機関庫の川で札内川と同様の調査を行い、清流であることを確認した。</p> </div> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【まとめる】 ●清流である機関庫の川を環境をいじすためにどうすればよいかを考え、保護者や地域に自分達の見解を発信した。</p> </div> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【課題設定】 ★機関庫の川の調査結果を受け、環境維持のために自分達にできることをしたいという意識が高まった。</p> </div> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【準備作業】 ★自分達にできることを具現化するための準備作業を進めた。</p> </div> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【実施する】 ★自分達で立てた計画をグループごとに実施した。(ゴミ拾い・外来種の駆除・啓発ポスターの掲示・チラシの配付等)</p> </div> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【課題設定】 ●環境維持のための活動を通して、感じたこと、分かったことをまとめ、行政に向けて発信するという目的をもってまとめに臨むことができた。</p> </div> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【まとめる】 ●自分達ではできなかったこと、行政レベルで取り組んで欲しいことなどを中心に、活動をまとめた。</p> </div> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【問題提起】 ●帯広市教育委員会の方に来校していただき、子どもたちから機関庫の川について問題提起を行った。</p> </div> </div>											
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 30%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【課題設定】 ●機関庫の川に昔ホタルがいたという話から、ホタルを呼び戻す活動への意欲付けを行った。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【調べ学習】 ●ホタルの生態について調べ、どのような環境がホタルには必要なのかをグループごとに考えていた。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【まとめる】 ●ホタル観賞会を実施し、その中で保護者や地域に向けて、ホタル復活への協力を訴えた。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>											

8.成果と課題

- 助成金で購入した道具類を活用できたので、とても有意義な活動となった。
- 学習の発表の機会が、「学年」「地域」「行政」と段階を経て設けることができたので、子どもたちのまとめ方、発表の仕方の成長がめざましかった。
- ▲ホタル復活の取組は、本来の活動と逆行する点があるので、見直しが必要。(調査活動では清流であることが判明。しかし、ホタル復活の条件としてはきれいすぎる。)

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり		学校名	帯広市立豊成小学校		助成番号	2018-7212 -003								
2.単元名															
3.目標															
4.実施学年 人数	第4学年 132人														
5.場所	機関庫の川 (帯広市清流西1丁目1番地1 帯広市立豊成小学校校地内) 稲田浄水場 (帯広市稲田町東2線8番地3) 十勝川流域下水浄化センター (帯広市西18条北3丁目13番地1)														
6.単元構想 (総時間数)	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2			
四 学 年			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 水はどこから①(8) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 稲田浄水場と十勝川流域下水浄化センターを見学し、自分達の生活用水とのかかわりを学び、気付いたことをまとめる。 </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 水はどこから②(12) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 機関庫の川が流れ込む札内川や十勝川の様子や地形から、良質な水をつくりだす要因やそれらの維持管理について考える。 </div>									
	主 な 学 習 活 動	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【課題設定】 ●「水はどこから」の単元で学んだことを身近な河川にも視野を広げ、知りたいこと、調べてみたいことを考える。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【施設見学】 ●機関庫の川が流れ込む札内川と十勝川にある上下水道を見学し、自分達の飲料水や生活につながる点について調べる。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【まとめる】 ●施設見学を通して得た情報と自分達の生活をつなげて考えるとともに、課題や問題点をまとめる。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【課題設定】 ★十勝の良質な水がどこからくるのか？また、どのようにつくられるのか、地質学的な視点から考える。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【調べる・学ぶ】 ★良質な水がつけられる要因とそれを生かした生活、さらには農業や加工業の発展にも水が関わっていることを実感することで、この環境を守る必要性について考える。 </div>					
評 価 項 目		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ●単元の内容を機関庫の川に派生させて考えを深めようとしている。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ●自分達の生活につながる視点をもって、浄水場や下水処理場を見学したり、調べたりしている。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ●施設見学で得た情報と自分達の生活をつなげ、課題や問題点をまとめることができる。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ★自分達の飲み水について興味をもち、十勝の良質な水ができる過程を十勝の地形と絡めながら考えることができる。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ★良質な水が自分達の生活や地元産業を支えていることに気付くとともに、環境維持・保全について考えることができる。 </div>					

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2018-7212-003
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

7.実際にいった単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
四 学 年	<p style="text-align: center;">水はどこから①(8)</p> <p style="text-align: center;">機関庫の川が流れ込む稲田浄水場と十勝川流域下水処理場を見学することで、自分達の飲み水や生活とのつながりを学んだ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【課題設定】 ●稲田浄水場と十勝川流域下水処理場と機関庫の川が密接に関わっていることを意識しながら学習に臨むことができた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【施設見学】 ●施設見学を通して帯広の水道水の美味しさに気づき、その元となる機関庫の川や自分達の生活排水とのかかわり考えることができた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【まとめる】 ●施設見学や社会科の学習を通して、わかったことや課題などを考え、今後の生活につなげようとしていた。</p> </div> </div>			<p style="text-align: center;">水はどこから②(12)</p> <p style="text-align: center;">機関庫の川が流れ込む札内川や十勝川の様子や地形を学んだり、水のゆくえを考えたりすることで、身近な河川を大切にしたいと思う気持ちを育んだ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【課題設定】 ★帯広の良質な水がつくれる要因を地質学的な視点から考えることができた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【調べる・学ぶ】 ★良質な水のおかげで、帯広の農業や加工業が発展していることに気づき、環境を守ろうとする気持ちを育むことができた。</p> </div> </div>							

8.成果と課題

- ◎機関庫の川は校地内、浄水場は徒歩圏内にあるので、より身近な問題としてとらえることができた。
- ◎自分達の飲料水になる川に機関庫の川が流れ込んでいることで、機関庫の川に対する思いや責任を感じる子どもたちが増えた。
- ▲さらに具体的に実感できるように、取水口や川の合流地点の見学をコースに組み入れることを検討したい。

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり			学校名	帯広市立豊成小学校			助成番号	2018-7212 -003			
2.単元名												
3.目標												
4.実施学年 人数	第5学年 118人											
5.場所	機関庫の川 (帯広市清流西1丁目1番地1 帯広市立豊成小学校校地内) 学校農園											
6.単元構想 (総時間数)	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
五 学 年	受けつがれる生命(4)		十勝の農業を体験しよう(12)									
	インゲン豆の発芽実験と並行して、ザリガニ堆肥の効果検証実験を行い、データをまとめる。			農家の人から野菜栽培について学び、ザリガニ堆肥を使って野菜を栽培する中で、農業と川(水)とのかかわりについて考える。								
主 な 学 習 活 動	【課題設定】 ●駆除したザリガニを堆肥として活用することについて、その効果と取組の意義を理解する。	【検証実験】 ●インゲン豆の発芽実験と並行して、ザリガニ堆肥の効果の検証実験を行う。	【まとめ】 ●ザリガニ堆肥を使ったインゲンと使っていないインゲンとの生長の違いを葉や実の色、大きさ、太さ、味などについて調べ、その違いをまとめる。	【課題設定】 ★堆肥を使った栽培活動を行うことで、十勝の基幹産業である農業と川とのつながりを考える。	【栽培活動】 ★ザリガニ堆肥を使った栽培活動を行う。 (ピーマン、バジル、トマト、とうもろこしなど)	【まとめ・実食】 ★川と農業とのかかわりや命のつながりを感じながら栽培した作物でピザを作り、試食する。						
	●駆除したザリガニの堆肥化や駆除活動について、その意義や効果を理解しようとしている。	●ザリガニ堆肥の有無によってできたインゲン豆の生長の差に着目し、その違いを部位ごとに見付けることができる。	●検証実験によって得た結果から、ザリガニ堆肥によって、どのような生長の差があったのかを部位ごとにまとめることができる。	★川や堆肥とのつながりを考えながら栽培活動を行おうとしている。	★外部講師から学んだ堆肥の効果的な活用方法等を参考にしながら、栽培活動を行っている。	★収穫した作物を活用してピザづくりを行い試食することで、豊かな食を生み出す川の存在に気づき、その環境を大切にしようとしている。						
評 価 項 目												

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2018-7212-003
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

7.実際にいった単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
五 学 年	受けつがれる生命(4)		十勝の農業を体験しよう(12)								
	<p>インゲン前の発芽実験を活用して、ザリガニ堆肥の効果検証実験を行った。明らかにザリガニ堆肥を使った方が、よく生長していたので、十分な効果が立証された。</p>			<p>かわにし農協や近隣の農家の方々に講師に、ザリガニ堆肥を活用した野菜の栽培について教わった。また、十勝の基幹産業である農業と水とのかわりも学んだ。</p>							
<p>【課題設定】 ●過去に駆除したザリガニの命がどのようにつながれていくのかを意識しながら活動することができた。</p>		<p>【検証実験】 ●インゲン豆の発芽実験と並行しながら「堆肥あり」と「堆肥なし」の生長の様子を比較し、堆肥の効果立証することができた。</p>		<p>【まとめ】 ●発芽実験の実験結果をまとめる中で、堆肥の効果も一緒にまとめた。葉の色、茎の太さ、実のつき具合など、どの項目でも大きな差が出た。</p>		<p>【課題設定】 ★かわにし農協青年部の方々に、堆肥の効果的な活用方法を教わり、栽培活動への意欲付けを行った。</p>		<p>【栽培活動】 ★堆肥を用いた野菜の栽培を行った。(ピーマン、トマト、バジル等を栽培した。)</p>		<p>【まとめ・実食】 ★収穫した野菜を利用して外部講師とともにピザ作りを行った。ピザ生地も十勝産のものを使用し、地産地消について学んだ。</p>	
											

8.成果と課題

- ◎ザリガニ堆肥を用いて栽培した野菜を食することで、命や川とのつながりを実感しながら活動することができた。
- ◎検証実験は、明確な効果を実感することができたので、自分達の活動が無駄ではないこと、命を奪うだけの取組ではないことなど、活動についての理解が深まった。
- ▲実験の検体が少なく、小集団での活動とはならなかったため、主体的な活動という面では改善が必要。また、実際に川での活動がないため、河川学習としての視点をもたせることが難しかった。

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり		学校名	帯広市立豊成小学校			助成番号	2018-7212 -003				
2.単元名												
3.目標												
4.実施学年 人数	第6学年 120人											
5.場所	機関庫の川 (帯広市清流西1丁目1番地1 帯広市立豊成小学校校地内) 校内スマイルホール											
6.単元構想 (総時間数)	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
六学年	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生物どうしのつながり(4)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">働くことについて(1)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p>低学年が駆除したウチダザリガニを堆肥化することで、命のつながりについて考える。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p>農家のこだわりの土作りの話から、ザリガニ堆肥の有効性を学び、自分達の活動の意義を学ぶ。</p> </div> </div>											
	主な学習活動	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 15%;"> <p>【課題設定】 ●下級生が駆除したザリガニを活用する方法の一つとしての堆肥化について、その意義を考え理解する。</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>【堆肥づくり】 ●駆除したザリガニを使って堆肥をつくる。 ●昨年度の堆肥を畑にまき、来年度に向けての土づくりを行う。</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>【課題設定・講義】 ★農家の方から土づくりの重要性を学ぶ中から、自分達の堆肥づくりの意義について再確認する。</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>【まとめる】 ★外部講師の話から学んだ土づくりや命のつながりについて自分の考えや感想を書き、お礼状として発信する。</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>【引き継ぎ】 ●命のつながりを考える道徳集会において、ザリガニ堆肥の引き継ぎを行う。</p> </div> </div>										
評価項目	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 15%;"> <p>●ザリガニ堆肥の意義や活動の目的について考え、理解している。</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>●ザリガニ堆肥の作業工程、もしくは、それを用いた土づくりに積極的に参加しようとしている。</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>★農家の方の話を聴き、自分達の活動の意義や目的を確認することができる。</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>★外部講師の話聴いて、命のつながりや自分達の活動について、自分なりの考えや感想をもつことができる。</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>●ザリガニ堆肥の引き継ぎを行う中で、その意義や目的を下級生に伝えようとしている。</p> </div> </div>											

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

アドバンス 活動報告書

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2018-7212-003
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

7.実際にいった単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
六 学 年	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">生物どうしのつながり(4)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">働くことについて(1)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p>下級生が駆除したウチダザリガニを堆肥化したり、昨年度の6年生から引き継いだ堆肥を畑に混ぜ込んで土作りをしたりすることで、命のつながりを実感した。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p>近隣の農家の方々にザリガニ堆肥の効果や有効性について講義して頂き、自分達の活動の意義を改めて確認することができた。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>【課題設定】 ●駆除したザリガニを堆肥化することに対する意味や今までの河川学習とのつながりを再確認した。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>【堆肥づくり】 ●堆肥を作るグループと昨年度引き継いだ堆肥を畑に混ぜ込むグループに分かれて作業を行った。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>【課題設定・講義】 ★近隣農家の方に堆肥の有効性を教えていただくことが、ザリガニの命を奪うことへの抵抗感や罪悪感をもっている子どもたちにとって、活動の意義を再確認するよい機会となった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>【まとめる】 ★講義を下級生の方にお礼状を書く中で、自分の気持ちを整理し、命としっかり向き合うことができた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>【引き継ぎ】 ●全校集会で下級生に自分達が作った堆肥の贈呈と活動の意義を伝えることができた。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>										

8.成果と課題

- ◎ザリガニ堆肥を実際に作ることで、子どもたち一人一人が環境保全と命についてしっかりと考えることができた。
- ◎堆肥作りの意義を第三者に話していただくことで、活動について自分の気持ちをしっかりと整理し考えるきっかけとなった。
- ▲環境と命という大きな問題を考えるには十分な時間が確保できていない。他教科やその他の教育活動でも話題にしながら考えていきたい。

様式 14 < 学校部門 >

【助成番号】

(2018-7212-003)

【助成事業名】

(機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり)

【学校名・学校長氏名】

(北海道帯広市立豊成小学校 校長：沼田拓己)

1年生「いきものとなかよし」



北高の生徒さん。2日間で50名ほどの生徒さんが協力して下さって、子どもたちの安全確保はもちろん、生き物の名前や捕まえ方、どんなところに棲んでいるのか等、様々な知識や自然とのかかわり方を教えてくれます。



初対面の高校生との微妙な距離感に加え、川への恐怖心から入ることへの躊躇が見られ、5分くらいは、川岸をウロウロ・・・。



高校生にながなれ、恐る恐る川へ入る子どもたち。ここからようやく信頼関係ができていくと、本格的な川の学習の始まりです。



子ども達の捕まえた魚を観察できるように「機関庫の川のジオラマ水槽」を準備しています。休み時間など、子どもたちは、自由に観察しています。



しばらくすると、もうすっかり最初とは違う子どもたちの姿が見られます。中には、素手でザリガニや魚を捕まえる子どもが出てきます。

様式 14 < 学校部門 >

【助成番号】

(2018-7212-003)

【助成事業名】

(機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり)

【学校名・学校長氏名】

(北海道帯広市立豊成小学校 校長：沼田拓己)

2年生「みんな生きてる」



昨年度の経験から、高校生とも最初から積極的ににかかわることができるので、質問なども増え、より多くの情報を吸収することができるようになりました。



2年生になると、様々な道具も上手に使えるようになり、より充実した活動ができるようになります。



魚やザリガニだけでなく、石の下にいる水生生物にも興味をもち始めます。触れなかった生き物にも積極的にチャレンジする姿が見られました。



河川財団の助成金で購入させて頂いた「アクアスコープ」と「たも」です。水底の様子を観察したり、水草の間の魚を捕獲したりするのに大活躍！アクアスコープの使い方が分からずにバケツ代わりになっている子もいて……。これも学びの一つです。

高校生1人に対して複数の子どもたちでグループを作ります。リーダー（高校生）の指示をしっかりと聞いて、ルールを守って活動することができるようになりました。活動後には、感じたことや分かったことを手紙にして、高校生に送りました。



3年生「機関庫の川と友だち」



私たちの住む清流地区にある機関庫の川は、本当に「清流」なの？という疑問から学習がスタート。「生き物がたくさんいるね。」「でも、ゴミがあるよ。」機関庫の川にもっと詳しくなりたいという気持ちがわいてきます。

「ホテル観賞会」を前に、昔、この川にホテルが建んでいたことを知った子どもたち。「どうしていなくなっただのかな。」「ホテルを呼び戻せないかな。」「どんな環境ならホテルが建めるのだろう。」水質調査と並行して、ホテルの生息に必要な環境条件を探っていきまます。まとめたことは、「ホテル観賞会」の中で発表する機会をいただきました。



十勝多自然ネットの協力により、外来種「ウチダザリガ二」の駆除活動。駆除したザリガニはその場で素揚げにして試食しました。川にとって厄介な存在の外来種も、一つの命。命の重みも感じながらいただきます。



帯広NPOサポートセンターの協力のもと、まずは、近くを流れる札内川にて水質調査を実施。バックテスト、水生生物調査の結果、清流日本一にもなった札内川は、とてもきれいな水であることがわかりました。では、私たちの機関庫の川はどうか…比べてみてみましょう。



機関庫の川での水質調査。2回目ともなると、主体的に調査に関わることができるようになります。すっかり「川と友だち」になった子どもたち。でも、そういう時期だからこそ、川の危険についてしっかりと心にとめる必要があることを、サポートセンターの方から学びます。私たちの機関庫の川も、とてもきれいな水であることが分かって、安心した子どもたちですが、「外来種」の存在が気になります。



半年間、五感を使って、機関庫の川の良いところも、まだ問題点も感じてきました。私たち3年生は、未来の川のために何ができるのだろう。チームをつかって活動を始めました。もっと川をきれいにしたいチームは、グリーン大作戦、ウチダザリガニの撲滅を目指すチームは、大がかりに駆除したり、仕掛けをつくって捕らえようと考えたりしました。活動が進んでいく中で、川の環境を守るために自分達が進めていることを、地域の人も広め、地域全体で川を守っていくことの必要性を感じ、ポスターやチラシをつくって、地域の皆さんに呼び掛けるチームもありました。最後には、教育委員会の方に来校していただき、自分達では解決できなかった問題を訴えることで、地域・行政とともに考える河川学習のまとめとしました。



様式 14 < 学校部門 >

【助成番号】

(2018-7212-003)

【助成事業名】

(機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり)

【学校名・学校長氏名】

(北海道帯広市立豊成小学校 校長：沼田拓己)

4年生「水はどこから」



市役所の水道課の方が来て下さって、帯広市の水道の水が、どれだけ安全で美味しいかを教えて下さいました。さらに、その水がすぐそばを流れる札内川からひいていること、学校裏の機関庫の川が流れ込んでいることを教わり、自分達の川に責任をもちたなければならないと感じたようでした。

水と川の環境学習は、社会科で学ぶものの、実際にはなかなか実感がないものになりがちですが、本校の子どもたちは、水源の一部が校内を流れ、校区内に浄水場があるなど、自分達の問題として考えやすい環境にあり、大変恵まれています。



校区内にある浄水場で、実際にできあがったばかりの水道水を試飲させていただきました。できたての水の美味しさに子どもたちは、何回もお代わりをしています。すぐそばの川の水をすぐそばの浄水場で飲み水にかえていることを実感し、川をきれいにしなければならぬという思いをたくさんの子どもたちももちました。

札内川が流れ込む十勝川にある下水処理場も見学しました。自分達が出した汚水がどのように処理をされ、川に流されているのかを学び、できるだけきれいな状態で生活排水をだすことが大切だと、自分達の生活の中でできることを一生懸命考える姿が見受けられました。



様式 14 < 学校部門 >

【助成番号】

(2018-7212-003)

【助成事業名】

(機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり)

【学校名・学校長氏名】

(北海道帯広市立豊成小学校 校長：沼田拓己)

5年生「十勝の農業体験(ザリガニ堆肥の効果的活用)」



堆肥あり



堆肥なし

1～3年生が「機関庫の川」で駆除したザリガニを6年生が「ザリガニ堆肥」にします。駆除したザリガニの命を大切にし、堆肥として活用することで「命の尊さ」「命のつながり」を学びます。

理科「受けつがれる生命」の単元で、インゲン豆の発芽実験があり、その際に、ザリガニ堆肥の効果検証を同時に行います。葉の色、茎の太さ、実の大きさ等、ザリガニ堆肥を用いた方が、明らかに生長していることを確認した子どもたちは、とても驚いていました。また、自分達がやっていることが、命を無駄にしていないと実感し、安心して見守られている様子が見受けられました。

6年生が作った「ザリガニ堆肥」で野菜を作る活動をしています。農協の青年部の方々に効果的な堆肥の使い方なども教えていただき、その効果についてもお墨付きをいただきました。また、作った野菜は、ピザにして食します。この場でも「命のつながり」を実感し、感謝しながら美味しくいただくとともに、十勝の農業の素晴らしさと地産地消についても学びます。



様式 14 < 学校部門 >

【助成番号】

(2018-7212-003)

【助成事業名】

(機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり)

【学校名・学校長氏名】

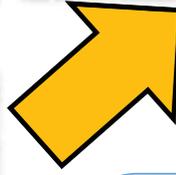
(北海道帯広市立豊成小学校 校長：沼田拓己)

6年生「生物どうしのつながり」



理科「生物どうしのつながり」の単元で、1～3年生が機関庫の川で駆除したザリガニを用いて「ザリガニ堆肥」を作ります。近隣の北高の先生に教えていただき、毎年「6年生を送る会」で下級生に贈ります。

ザリガニ堆肥を作るには、ザリガニを細かく砕かなくてはなりません。その作業過程に抵抗のある子どもたちも少なくありませんが、土作りのプロセスをお話して頂き、その有効性を教えて頂くことで、その抵抗感が和らぎ、積極的に作業できるようになります。



昨年の6年生がプレゼントしてくれたザリガニ堆肥を使った「農業体験学習」。命のつながりを実感しながら野菜を育てています。5年生の時に学んだ知識を生かしながら、効率的に作業を進める姿が見受けられました。

また、作った野菜は、理科の実験に使用したり、調理実習で活用したりしています。



ゆたか

月 日 () No.1

3年 組 番

名前 _____

1. 学習内容・めあて

2. 機関庫の川は『清流』なのか？

よ想しよう

『清流』 だと思う

『清流』 ではないと思う

理由を書こう

調べたいことを書こう

ゆたか

月 日 () No.2

3年 組 番

名前 _____

機関庫の川をけんきゅうしよう①

(場所：学校のうら)

☆調べたことを絵と文で記録しよう。

- 見つけた生き物
- 水の様子・石や草などの様子
- 川のまわりの様子で気になったこと

① 題名 _____

見つけたこと _____

考えたこと _____

② 題名 _____

見つけたこと _____

考えたこと _____

③ 題名 _____

見つけたこと _____

考えたこと _____

ゆたか

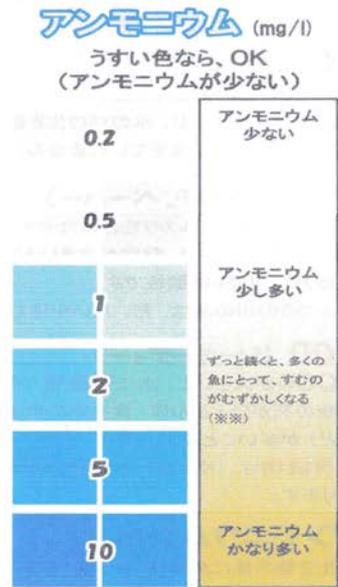
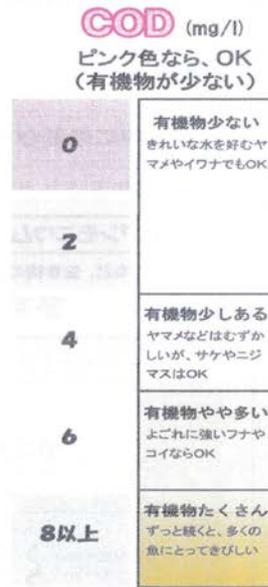
月 日 () NO.4

年 組 名前

1. 学習内容・めあて

2. ちょうさの結果をまとめよう

(1) パックテストの結果 (丸を付けてみよう)



(2) 水中生物の様子

(3) 透視度・流速など

と

ゆたか

3年 組 番

名前 _____

「機関庫の川けんきゅう発表会」に向けて

1. チーム名	
2. チームの仲間	
3. 発表すること	<p style="text-align: right;">について、発表する。</p>

【発表内容】

よていの図を書く



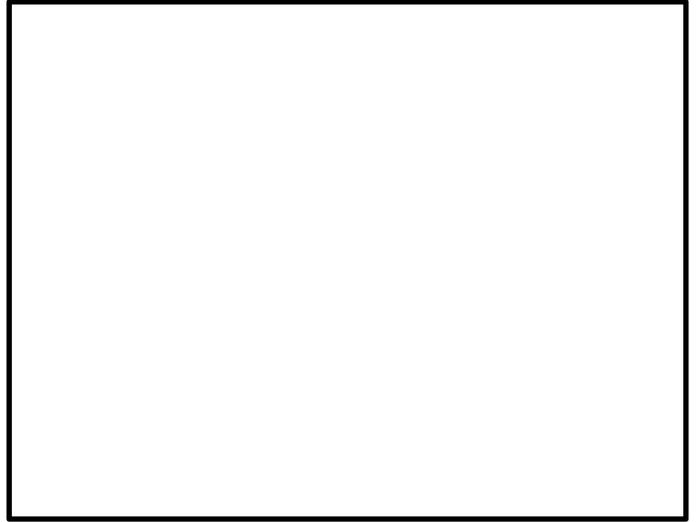
1 目次 ~表紙~

発表することの題名 _____

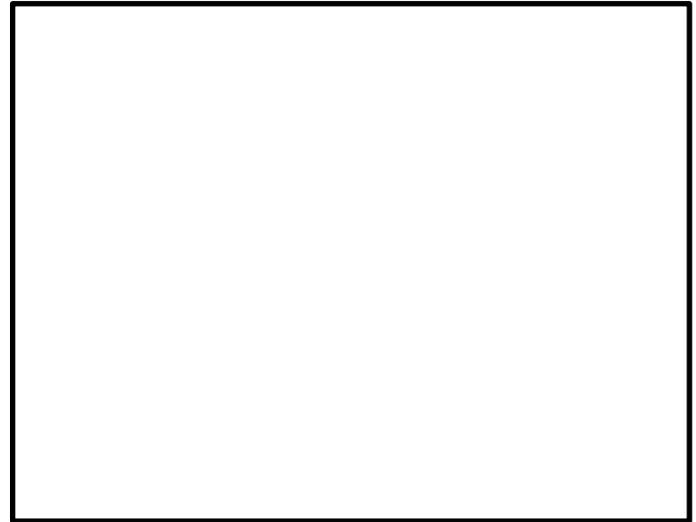
チーム名 _____

2 目次

○まい目



○まい目



○まい目



3 3まい目



ま 3とめのページ

3 調べた結果からわかったことは・・・



お 3わりのページ

3 いっしょに作ったメンバーをしょうかい



☆今後の予定☆

7月6日(金)・・・2時間さぎょう
9日(月)・・・1時間さぎょう
10日(火)・・・2時間さぎょう

} 発表物完成

12日(木)・・・1時間 発表の練習
18日(水)・・・1時間 発表の練習
19日(木)・・・1時間 さいしゅうりハーサル
20日(金)・・・2時間 「けんきゅう発表会」

☆時間を守って、かたづけたり、集まったりしよう。

☆みんなが“活やく”できるようにしよう。

☆自分のできるしごとをどんどんさがそう。

☆使いたいしりょうは、図書室でさがしたり、先生にも相談しよう。

☆写真を使いたいときも、先生に相談しよう。

☆ペンや色えんぴつで、1枚1枚きれいにしあげよう。

ゆたか

月 日 () NO.6

年 組 名前

これまでの学習で、きかんこの川のことを、いろいろわかったね。どんないいところがあったかな？また、問題点もみつかったかな？

1. みんなが大人になったとき、また、100年後、きかんこの川は、どんな川であってほしいと思いますか？

2. 「未来のきかんこの川」のために、今年の3年生はどんなことをしますか。たくさん書いてみましょう。

「みらいの機関庫の川のために、 3年生で何をする？」

みんなで協力してゴミ拾いや川のそうじをする。

3年生全員でゴミ拾い大作戦

児童全員で協力して。ずっと何年生になっても続けてゴミ拾いをやる。

地いきの人といっしょに、川の周りをきれいにしたい

危険なものを減らす

ごみのポイ捨てがなくなるように、立てかんばんやポスターをつくって呼びかける

注意書きのボードを川のそばに立てる。

ビンなどを捨てないように、地いきの人に「あぶないものを捨てないでください」と伝える。

ゴミを捨てる人がいたら注意をする

外来種のことを知らない人に、教えてあげる

外来種がいなくなる方法を本とかで調べてやってみる

生き物を大切に作るポスターをつくる

在来種と外来種が見分けられるようにポスターをつくる

ニホンザリガニはどこに行ったか探す。

ニホンザリガニを増やす

在来種を増やす

ウチダザリガニをとって、食べたり、処分する。
ウチダザリガニはとって終わりではなく、しっかりと命をむだにしないようにしたい
ウチダザリガニをくじょするために、わなを仕かけてとる。
地域の人と一緒にザリガニをとる。
ウチダザリガニなどの外来種を川に戻さないように、ポスターをつくって呼びかける。
ウチダザリガニとニホンザリガニの棲みかを分ける。
ウチダザリガニの卵をみつけたら、一緒に卵もとる。
肥料にする。

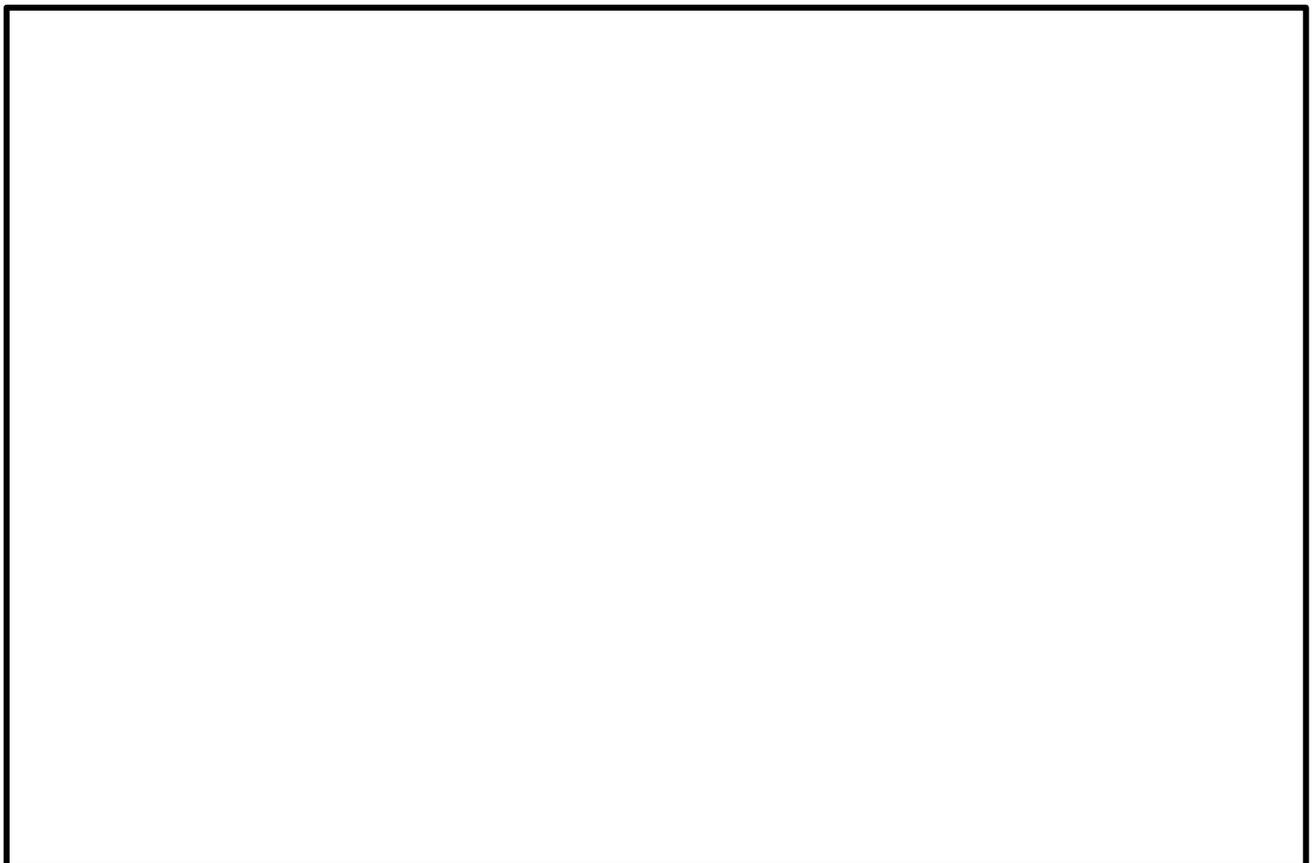
できれば流れをゆっくりにしたい
流れのはやいところには、仕切りを立てて、流れを防いで調節する。
汚い川に棲んでいる虫を減らしたい。
魚を増やしたい
ヘドロを埋めたい

ホタルの棲める環境づくり
ホタルのエサを増やす。
ホタルの食べ物を放す

植物を植える
川の周りの環境もよくする。雑草をなくして花を植えたり、道を作ったりする。鳥かごも木につけたらいい。

チラシをつくって、地域の人や次の3年生に教える。
「ゴミ0・外来種0」を目指して、それをみんなに広める活動をする。(それをずっと繰り返す。)
滑りやすいので、草を抜いたりする
安全な川にする
次の3年生が勉強するときに、「ゴミが少ないね」と行ってくれるようにきれいな川にする。
いつまでもみんなが楽しく遊べるように…
帯広で一番きれいな川にする。
北海道で一番きれいな川にして、有名にしたい。
棲みやすい川にするため、勉強以外は、機関庫川に入らない
全部終わったら再度パックテストをする

「メンバーを集めて、活動を始めよう！」



ゆたか

月 日 () NO.8

年 組 名前

1. チーム名

2. 機関庫の川のために、チームで何をするか、決めましょう。
何のために（どうなってほしいから）というところを大切に
しましょう。

3. じゅんびすること、ひつような物を書きだしましょう。

※14:00にさいしょの形に集合して、交流します。

「川と友だち」 (地域の人や市役所に人に伝えたいこと)

① 「2組チーム」 とうま (わな→ネット)

- 機関庫の川に来るいろんな人に声掛けしたいから、ホームページなどで「機関庫の川を守るために」など、一緒に呼び掛けてほしい。

② 「川をきれいにしようチーム」 あいり (ゴミ→ポスター)

- 市民で協力して、ゴミ拾いやウチダザリガニの駆除をしたい。
- 無名川という川に、ニホンザリガニがいるらしいから、情報があたらほしい。

③ 「魚をふやそうチーム」 じゅんのすけ (わな→ネット)

- 市役所の人や地域の人と一緒に、たくさんの人で川に入って駆除することができたらいい。

④ 「ザリガニくじょチーム」 りん (くじょ→ポスターのみ)

- 外来種を入れない「三つの約束」をたくさんの人に伝えたいから手伝ってほしい。
- 機関庫の川には、危険なゴミがたくさんあるので、1か月に1回くらいゴミ拾い活動をしてほしい。

⑤ 「ちいきのゆうびんやチーム」 えいと (ポスター)

- 地域の方へ、ゴミは捨てないことと、一度飼った生き物は責任をもって飼いつけてほしい。

⑥ 「みんなきょうかくじょチーム」 えいた (くじょ→ネット)

- 少しでも、ウチダザリガニを減らすとこと、ゴミをとることをしてほしい。
- ウチダザリガニの採り方について、物知りな人がいたら協力してほしい。

⑦ 「ウチダザリガニをへらそうチーム」 りんは (くじょ→ポスター)

- 多自然ネットなどプロの方に捕り方を教えてもらう機会が欲しい。
- ポスターで、地域の人に外来種の存在を呼び掛けたので、協力してもらいたい。

⑧ 「ザリガニくじょ隊」 りょうた (わな→ネット)

- ウチダザリガニをとろうとしている人がいたら協力してほしい。
- 捕り方を研究している人がいたら指導してほしい。
- (豊成地区だけではなく、機関庫の川沿いの) 機関庫川の近くに住んでいる地域の人に呼び掛けて、2か月に一度くらい大勢で一斉駆除してはどうか。

⑨ 「ニホンザリガニさがしたい」 うた (ポスターのみ)

- 今回作ったポスターを、いろんな場所に貼りたい。

⑩ 「くじょチーム」 さくら (くじょ→ポスター)

- 年に3回くらい、日にちを決めて、機関庫の川に集まり、3年生と一緒に駆除してほしい。

- 外来種は外国から入ってくるから、外来種のことを外国人の人にも伝えたいので、帯広市のホームページに私たちの願いを載せてほしい。

⑪ 「川のゴミをとろうチーム」 けんと（ゴミ→ポスター）

- 楽しくザリガニを駆除して、駆除したザリガニを食べるイベントを企画してほしい。
- 楽しくゴミ拾いができるイベントを企画してほしい。

⑫ 「ウチダザリガニくじょチーム」 たかや（わな→ネット）

- ウチダザリガニを楽しく捕るイベントをしてほしい。
- 外来種を川に放さないでほしいと呼び掛けてほしい。

⑬ 「ゴミをへらしたいチーム」 わかな（ゴミ→ポスター）

- ゴミが減るように、地域の人との協力が欲しい。
- 私たち子どもが作ったポスターではわかりにくいと思うので、本格的なポスターを作してほしい。

⑭ 「ニホンザリガニをふやそうチーム」 ゆりあ（ポスターのみ）

- 帯広市のすべての川に、外来種の看板を立ててほしい。
- ニホンザリガニ専用の川を作してほしい。
- 外来種を効率よく捕る方法を知っていたら教えてほしい。

チーム名かリーダーの名前

○内容や発表の仕方でも良かったところを伝えましょう。

(より)

チーム名かリーダーの名前

○内容や発表の仕方でも良かったところを伝えましょう。

(より)

チーム名かリーダーの名前

○内容や発表の仕方でも良かったところを伝えましょう。

(より)

オール豊成のチームワークで『潮いと勢い』のある豊成小づくり

Connect



帯広市立豊成小学校
プロジェクト通信

メンター
メンティ

外国語

キャリア

体力向上

平成30年6月18日
NO.4 文責 小林

キャリア

環境を考える（機関庫の川と札内川の調査より）



1回目の観察。機関庫の川で水生生物の調査をしました。
ウチダザリガニやドジョウ、魚もたくさん捕れました！

6月7日（木）、3年生の川の学習がはじまりました。今回は、「課題対応能力」の育成を目指した取組で、機関庫の川や札内川を学習材に、調べたことや発見したことから課題を見だし、その解決に向けて自分達にできることを考えていきます。

1回目の観察では、機関庫の川は、たくさんの生物がいる豊かな川だということを実感することができました。子どもたちは、楽しみながら自然とかかわり、川やその周辺の環境に対して興味関心を抱くことで学習に対する意欲を高めていきます。

そして、2回目。14日（木）に行われた札内川の学習では、さらに一歩進み、水生生物の調査、水質調査、流速調査、透明度調査等専門的な調査を行い、根拠となる数値資料をもとに、札内川の環境をまとめていきます。（札内川は、とてもきれいな川だという結果が出ました。）

最後に3回目。再び機関庫の川に戻り、札内川と同様の調査を行い比較検証することで、機関庫

の川も札内川同様「とてもきれいな川」だと言うことがわかりました。自分達にとって、最も身近である機関庫の川が、とても恵まれた環境にあり、誇るべき地域の宝であることを実感してくれば・・・と思います。

2学期は、「この環境を維持するためにはどうすれば良いか?」「どうしてホタルがいなくなったのか?」等各自の課題に沿って、仮説・検証を行いながら、学習をまとめ、環境改善・維持のために自分達にできることを実践したり、地域や行政に発信したりする活動へと繋げていく予定です。

豊成小学校のように、校地内に川が流れ、自然を直に感じることができる学校は、なかなかありません。もちろん、準備や活動は、先生方の負担を増やし、時数も圧迫していきます。しかし、それに見合うだけの経験を子どもたちは積み、成長しているのも事実です。次は、この経験を他教科や日常生活にも「つなげて」考えることができるようになれば、最高ですね。



2回目の観察。札内川で水質・生物・流速等の調査を行いました。PH7. 酸素濃度も十分！カゲロウ類等、きれいな水に棲む生物もたくさん確認できました！



3回目の観察。機関庫の川で札内川と同様の調査を行いました。札内川より多くの生物が確認され、豊かな自然環境が実証されました。

オール豊成のチームワークで『潤いと勢い』のある豊成小づくり

Connect



帯広市立豊成小学校
プロジェクト通信



平成30年7月11日
NO.5 文責 小林



ザリガニ堆肥と命のつながり



ザリガニ堆肥なし



ザリガニ堆肥あり

みんなで駆除し、毎年6年生が堆肥化するザリガニ堆肥。城石先生にお願いして、堆肥の効果を検証してもらいました。5年生の理科の授業『受けつがれる生命（発芽の条件）』を利用して比較検証してもらったのですが、草丈・葉の大きさ・色・莖の太さ・実付きの良さ、どれをとっても「ザリガニ堆肥あり」の方がより立派に生長していました。前回の検証でも同様の結果が得られているので、ザリガニ堆肥の有効性は、ほぼ立証されたこととなります。

この取組が始まった当初は、駆除したザリガニを堆肥化するにあたって、子どもたちから「かわいそう」という声がたくさん聞かれました。外来種なので仕方がないとしながらも、命の尊さを感じ、命を奪うことへ抵抗感を示す子どもたちのフォローをどうしていくかが、この取組の大きな課題でした。

そこで、堆肥化したザリガニが植物の命につながり、私達の食を通して命を支えていることを実感できるように『ザリガニ堆肥の検証実験』を行うことにしました。「かわいそう」という感情には変化はありませんが、実際にザリガニ堆肥が植物の生長に大きく役立つことを目の当たりにしたことで、駆除活動の意味、そして命のつながりを実感し、自分達の活動に意義を見出すことができましたようです。

この学習は命を扱う難しい内容ですが、子どもたちの小さな心が動き、葛藤しながら自分なりの結論を出す……。本当に貴重な経験だと思います。大切なのは、この活動に慣れてはいけないうこと。常に葛藤しながら命と向き合うことのできるように、掛ける言葉の一言一言に気を付けながら授業を進めることが必要だと思います。

<子どもたちの感想>

ザリガニを殺してしまうのは、かわいそうだけど、ザリガニ堆肥のおかげで、植物が生長するのは、命をつなげることができるので良いと思いました。

ウチダザリガニを悪者扱いしないで、生かす取組は、続けて欲しいと思います。

1組女子

最初に生長の差があるインゲン豆を見て、なんで差があるのか全くわかりませんでした。まさかザリガニ堆肥だとは思いませんでした。

ザリガニは、かわいそうだと思ったけど、ザリガニの命が植物のために、こんなに役に立っているのは、すごいと思いました。

2組女子

話をきいて、命をむだにせず次へと受け継いでいくことや命の大切さを改めて感じました。ザリガニは、かわいそうだけど、それによって新しい命が生まれることがよく分かりました。

私もこれから生きていく中で、命を大切にしていきたいです。

3組女子

オール豊成のチームワークで『潤いと勢い』のある豊成小づくり

Connect



帯広市立豊成小学校
プロジェクト通信



平成30年7月13日
NO.6 文責 小林



豊成小生まれのホタル誕生！

～3年生がついに発見！～



豊成4匹目の成虫です！

昨年の7月、『ホタル観賞会』後にシオラマ水槽内に放虫して産卵させたホタルが、成虫になりました！つい先日、やっと幼虫を発見して、水槽のガラス面で紹介したところでしたが、まさか成虫もいるとは・・・。（先日の幼虫が成虫になったとは思えないので、もしかしたら別の個体がいたのか？または、一昨年の幼虫が今年成虫になったのか？いずれにしても嬉しいですね。）

現在3年生は、機関庫の川と札内川の水質調査を終え、各グループの課題にそって調べ学習を続けているところです。その中の「ホタル」について調べるグループが、シオラマ水槽の観察を行っている時に偶然発見！すぐに報告に来てくれました！ここ数日、何回も足を運び、熱心に観察をしていたからこそこの発見だったので、子どもたちも興奮気味でした！

今まで豊成小学校は、たくさんの方々にご協力をいただいてホタルの授業を進めてきました。人脈も広がり、取組に共感していただける方から、また新たに強力な人材を紹介していただいて、その内容もどんどん充実してきています。また、同時に私達も様々な知識を得る機会に恵まれています。今回、無事にホタルが誕生したのも、そんな方々のアドバイスもあってのことなのです。

例えば、ホタルが棲む環境をつくるためには、ホタルにとって棲みやすい環境を整えるだけではなく、ホタルのエサになるカワニナが棲む環境を整えなければなりません。シオラマ水槽は、ホタルの棲む環境を再現できてはいたものの、ホタルの幼虫が食べるカワニナの稚貝がほとんどいませんでした。そこで、今年度はカワニナを購入し、稚貝を増やすことから始めました。今では、水槽いっぱいには稚貝が生息しているのが確認できます。きっと今年のホタルは、よりよい環境で飼育できると思うので、来年は、成虫になるホタルの数が増えるのではないかと期待しています。

今回、カワニナの稚貝を充実させるアドバイスをいただいたのは、いつもホタルを発注していた店の社長さんです。もともと社長さんにお世話になっていたのが、取組に興味をもってくださった社長の息子さんのお世話になるようになり、そして今年は、社長さん直々にお電話をくださって相談にのっていただくことができました。先日は、千葉県からわざわざカワニナの様子を見に来て下さって・・・。本当にありがとうございます。限られた予算の中で、こんなにも充実した取組ができるのは、子どもたちの知らないところで協力してくださっているたくさんの方々のおかげだということを何かの機会に伝えていただければと思います。また、私達も与えられた環境を当たり前のことだと勘違いしないように、感謝の気持ちをもって取り組んでいきたいと思っています。

今後も今まで築いてきた地域や外部の方々との関係を継続していくため、全員で共通理解のもと運営していくことができれば・・・と思います。この通信が、その一助になればと考えていますので、何かあれば、ご意見をいただきたいと思います。宜しくお願いします。



オール豊成のチームワークで『潤いと勢い』のある豊成小づくり

Connect



帯広市立豊成小学校
プロジェクト通信



平成30年8月9日
NO.8 文責 小林



ホテル観賞会、ありがとうございました！

～過去最高420名の参加申し込みでした～



7月25日(水)、今年で5回目となったホテル観賞会が行われました。過去最高の420名もの参加申し込みがあり、いかに混乱なく3年生の発表を行うことができるか、たくさんの方々の意見を参考に会場設営を行いました。また、「河川財団基金」を活用し、スピーカーとアンプを購入したことで、後ろの座席にも十分に子どもたちの声を届けることができ、いつもよりもいい環境で発表ができたのではないかと思います。

3年生の発表は、学年をテーマごとに10のグループに分け、プレ発表会で4つの代表グループに絞りました。どのグループもよく調べていたことはもちろん、自分達の考えを述べたり、地域にお願いすることを織り交ぜたりと、大変内容の濃い発表になっていたと思います。特に、自分達で実験を重ねた札内川と機関庫の川の「水質」に関しては、どのグループも「地域の誇り」「守るべきもの」という意識が強く発表に表れていて、とても説得力があったと思います。子どもたち自身に、その意識が芽生えたことが、この学習での大きな成長だと感じています。2学期からは、その思いや考えを実践する中で、また様々なことを体感し、環境に対する考えを深めて欲しいと思います。限られた時間の中、準備を進めて下さった3年生の先生方、本当にお疲れ様でした。

一方、観賞会もたくさんの方々のご協力で、無事に終了することができました。5回目ということもあって、手際よく準備や後片付けを進めて下さり、予定通りに始めることができました。1学期の最終日である25日……。本来であれば、すぐに帰宅し、ゆっくりと休みたいのが当たり前。でも、子どもたちのためならば……。と、快くお手伝いしていただき、本当に感謝しています。ご都合が合わず、残念ながら参加できなかった先生方も「お手伝いできなくて、すみません。」と、お声掛けいただき、本当に恐縮です……。

何か1つのことを行う時に、こうやってみなさんにご協力いただけるのは、本当に心強いことです。新しいプロジェクトを試験的に立ち上げたり、勤務時間外に取組を行ったりする場合、強制的に協力を求めることは、なかなかできません。かといって、一部の人がだけ奔走するのも、組織としては違う気がします。「自分には関係ない」と割り切ってしまうと、そこまでですが、豊成小学校の先生方は、様々な立場や思い、そして何より子どもたちのことを考え、協力してくださっています。「ホテル観賞会」をはじめ、数々の行事が、そんな善意に支えられ、行われているのだと改めて強く感じています。

今後も、みなさんの思いや努力が無駄にならないように、一つ一つの取組を一生懸命行っていくとともに、「本当に必要な取組なのか?」「別のやり方はないのか?」と、負担軽減も視野に入れて、しっかりと精査していくことにも力を入れていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



オール豊成のチームワークで『潤いと勢い』のある豊成小づくり

Connect



帯広市立豊成小学校
プロジェクト通信



平成30年8月30日
NO.9 文責 小林



生き物とのかかわり・高校生とのかかわり

～帯広北高等学校の生徒さんと一緒に～



悪天候のため延期になっていた1,2年生の川の学習が、8月21日(火)、23日(木)に行われました。今回は、機関庫の川の生き物とふれあうこと、また、帯広北高校の生徒さんとふれあうことを目的として行いました。キャリア教育の観点で言うと、「社会形成・人間関係形成能力の育成」と「キャリアプランニング能力の育成」を目指しています。

具体的には、高校生と一緒に学習するといういつもの違う環境の中で、高校生の指示に従い、安全に楽しく活動するために、自分はどうすべきか?自分と他者とのかかわりを考えながら、行動すること(社会形

成・人間関係形成能力)、高校生の姿に未来の自分を重ね、目標や憧れをもつこと(キャリアプランニング能力)を培っていきます。

今回のポイントは、子どもたちが、日常のグループ活動とは異なり、グループのリーダーが高校生であることを認識するとともに、安全に生き物を捕獲するためには、高校生の指示にしっかりと従うこと。自己主張を抑え、グループで協力することが大切であると気付くことでしたが、かなり早い段階で、それに気付き、一生懸命協調性を大切にしながら活動する姿が見受けられました。グループを外れて自分勝手な行動をとったり、友達とケンカをしたりする姿がほとんど見られなかったのがその証です。

一方、高校生も絶対にケガをさせられないという責任。1,2年生の子どもたちが楽しめるレベルに合わせた活動の精選。また、低学年が理解しやすい言葉遣いや言い回しなど、普段の生活では意識しない「気遣い」に疲れながら、自分より弱い立場の人とのかかわり方を学んでいきました。その姿から、高校生の優しさや頼もしさを感じ、自分の今後に生かそうとする・・・。そんな学習になっていけば、今回の取組の目標は達成できたということです。子どもたちの感想からは、そんな様子が見られます。

北こうのみなさんへ

やさしくおしえてくれて、ありがとうございます。いしをよけてくれたおかげで、ザリガニをとることができました。おもたい石をはこんで、すごいとおもいました。みずがふかくてこわかったけど、お兄さんが、はこんでくれたおかげでわたれました。2組女子

きてくれてありがとうございます。すごかったのしかったです。なんにもつれなかったけど、水に入ったのがたのしかったです。こわかったけど、お兄さんおねえさんがたすけてくれたから、こわくなくなりました。

3組女子



オール豊成のチームワークで『潤いと勢い』のある豊成小づくり

Connect



帯広市立豊成小学校
プロジェクト通信



平成30年8月30日
NO.10 文責 小林



命をいただくということ・・・

～多自然ネットの皆さんとザリガニの試食体験～



8月24日(金)、3年生4回目の川の学習が行われました。心配された雨にもあたらず、とてもいい環境で学習することができました。河川敷も木俣さんをはじめ、開発局の方が草刈りをしてくださったので、見通しも良く、安全に授業を進めることができ、本当に感謝です。

さて、今回は、機関庫の川の生物観察がメインとなります。ウチダザリガニをはじめ、フクドジョウやヤマメ、珍しいヤツメウナギも捕れたようです。河川財団基金で購入した「薄型観察水槽」も大活躍！真横はもちろん、下からも至近距離でじ

くり観察することができ、それぞれの生き物の特徴を多自然ネットの皆さんから細かく教えていただくことができました。あまりにもよく見えるので、子どもたちも真剣に話に耳を傾けていました。

一方、そんな充実した活動の裏で毎回問題となるのが、大量に捕獲される「ウチダザリガニ」の存在です。子どもたちは、過去2年間の川の学習で、「駆除」という形でウチダザリガニを処分してきました。堆肥化することで「命のつながり」を説明はしてきましたが、「実感」という面では、かなり薄いものだと思います。そこで、今回は、「ウチダザリガニを食す」という最も実感できる体験学習を通して「命をいただく」「命のつながり」を直接感じられるように、多自然ネットの皆さんの協力を得て、素揚げにさせていただくことにしました。最初は、躊躇していた子どもたちも、次第にその美味しさがわかったようで、「まだ食べたい！」と、お代わりする子が続出！結局、捕獲した全てのザリガニを揚げていただいて試食しました。

阿寒湖周辺では、食材として積極的に活用されつつある「ウチダザリガニ」ですが、機関庫の川では、そうもいきません。川での活動を積極的に授業に取り入れるには、こういった命の問題とも向き合っていかなければならないのが現実です。「駆除は、自然を守るために必要なことである。」と押し通してしまう方法もありますが、こうやって環境保全の大切さを伝えながら、命を守るために別の命を絶つという大きな矛盾と向き合っていくことで、環境について真剣に考える機会になればと思います。

また、今回の子どもたちの様子を見て印象的だったのは、とても前向きに授業に臨んでいるということです。もちろん、内容的にも楽しい活動なので、座学に比べると積極的なのは分かりますが、それだけではない「マナー」を意識した言動が多かったように思います。協力していただいている方々に対して失礼のないように、「マイナス発言をしない。」「反応をしっかりとる。」「話をしっかりと聞く。」など、事前指導が十分にされていることが感じられる対応だったと思います。指導者の方々も大変喜ばれていて、その子どもたちの態度に応えようと本当に一生懸命説明して下さっていました。お互いがかみ合った、とても充実した2時間だったように思います。



さあ、次は、環境保全のために自分達にできることを考え、実践していく活動へと入っていきます。子どもたちがどんな対策を考えるのか楽しみですね。

オール豊成のチームワークで『潤いと勢い』のある豊成小づくり

Connect



帯広市立豊成小学校
プロジェクト通信



平成 30 年 8 月 30 日
NO.11 文責 小室



帯広の農業はあつい！！

J Aかわにし青年部のみなさんから話を聴きました！



6月21日(木)、JAかわにし青年部、帯広市農政部農政課より、今年も総勢20名ほどの皆さんが来校されました。帯広市の「食育推進サポーター活動」の一環で、5年生の総合的な学習の時間の2時間を出前授業として担ってくださっています。

まず「帯広の農業」について、市役所農政課の方からお話をいただきました。広大な農地面積や小麦やビート、豆類、馬鈴薯など帯広で作られている作物の話を書いて、子どもたちは「知っていたこともあったけど、もっと詳しく知れてよかった。」と感想をもちました。「地産地消を知っていますか？」の問いにしっかりうなずいていた5年生。さすが帯広っ子だと思います。

次は「自分たちで育てている作物の育て方について」。天気が良かったら、畑に行ってお話を聞きました。9月に作るピザの材料として育てている

見ながらアドバイスをしていただくのですが、今回は雨のため室内でお話を聞きました。9月に作るピザの材料として育てている野菜。作物ごとにそのプロが丁寧に育て方を教えてくださいました。

最後に農業という仕事について話していただきました。「子どもの頃から、農作業の手伝いは楽しかった。天候に左右される仕事で、収穫がなくて辛いこともある一方、たくさんいい物を収穫できたときの喜びは大きい。帯広・十勝の農業は日本の食に欠かせないものだというを一昨年災害で改めてわかったの、ますます力を入れて仕事をしている。みなさんには、農家の思いや帯広・十勝の農業の素晴らしさを感じながら食事してほしい。」農業に携わる方々の熱い思いを子どもたちはしっかりと受け止め、「帯広って素敵な町なんだな。」「自分たちの食を支える農業という仕事についてもっと知りたいな。」と思うことができました。

人間関係形成・社会形成能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力

- ・農家の人達が、毎日大変な思いをしていることで、僕たちが野菜を食べることができるんだなと思いました。僕はこれから作ってくれた人に感謝の気持ちを届けたいと思いました。
- ・十勝で作っている野菜のことはだいたい知っていたけど、みなさんが教えてくれたことによって、今よりもっと野菜のことがわかるようになりました。今5年生では、野菜を作っているの、それに役立てようと思いました。今日の勉強を通じて、将来農家の仕事をしてみようかなと思いました。
- ・給食にも、十勝の農作物がたくさん使われていると聞いておどろきました。ふだんは、どこの野菜が使われているかはあまり意識していないけど、地元の野菜が食べられるのはうれしいです。農家さんの苦労を思い出して、大切に食べたいと思いました。うまくいかないときもいろいろな工夫をして頑張って農作物を育てる農家の仕事は楽しくてやりがいがありそうだと思います。私も農家の仕事をやってみたいです。

- ・虫が来ないようにできることがわかってよかったです。みなさんのおかげでおいしいピザができそうです。ほくも農家をやってみようかなと思いました。
- ・野菜がよく育たなくて不安だったけど、みなさんに「天候がよくなると野菜もよくなるよ」と教えていただいたのでよかったです。
- ・1年の中でも忙しい時期なのに、出前授業に来ていただきありがとうございます。青年部のみなさまに教えていただき、初めてわかったことがあります。それは、ビートは北海道でしか育たないということです。今までどこでも育つと思っていました。
- ・いろいろな野菜や動物のお話を聞いて、農業やらく農に興味をもちました。おばあちゃんが浦幌で牛を飼ったり、野菜を育てたりしているの、今度手伝ってみたいです。野菜や牛乳のありがたみがわかった気がします。乳を出さない牛と出す牛とどうちがうのか今度調べてみたいです。

- ・みなさんが教えてくれて、農業に少し興味がわいてきたと思います。(中略)初めて聞いた「地産地消」という言葉をこれから使うかもしれないので、「地産地消」を忘れないように覚えておきます。
- ・これから家や学校でごはんを食べるときにいろいろな食べ物がどうやって作られているのかを思い出しながら食べたいと思います。
- ・少し農家の仕事をしてみたいので、たくさんを知りたいなと思いました。ほくは、お父さんと野菜を作ったり、育てたりしているので、今回知ったことを使って、自分の力でも作物を育てられるようになりたいなと思います。
- ・1番びっくりしたことは、大豆や小豆は十勝が1番になっているということ。私達が住んでいる十勝にこんなすごいことがあるんだなと思いました。
- ・将来は、ちがう夢があって、農家をやることはできないかもしれないんですけど、一度でいいから自分で作った野菜を食べてもらって、人の笑顔を見たいと思いました。

オール豊成のチームワークで『潤いと勢い』のある豊成小づくり

Connect



帯広市立豊成小学校
プロジェクト通信

メンター
メンティ

外国語

キャリア

体力向上

平成 30 年 10 月 5 日
NO.12 文責 小林

キャリア

十勝をパン王国に！



9月27日(木)、ますやパンの杉山社長と早川さんに、ピザの出前授業をしていただきました。

毎年、杉山さんには、ご自身の夢を叶えるまでの過程をお話していただき、夢をもつ素晴らしさと努力する楽しさ、そして、夢を叶える喜びを子どもたちに伝えていただいています。杉山さんのすごいところは、夢が『夢』のままではなく、どんどん膨らみ大きくなっていくところです。数年前は、「2020年の東京オリンピックで、世界中の人たちにますやパンを食べてもらうこと。それまでに東京に出店します。」とおっしゃっていました。そして、2年前に東京にますやパンをオープン！まさに有言実行！話を聞いていた子どもたちにとって、こんなに

も大きな夢を実現させる大人が身近にいることが、どれだけ頼もしく映ったか……。しかも今回の打合せでは、「2030年に十勝をパン王国にします！」と、夢はさらに大きく変わっていました。

杉山さんは、「まず自分の夢を絵に描いて毎日見ることからはじめてごらん。」と、子どもたちにアドバイスをしてくださいました。夢をイメージしやすく、そして忘れないこと……。目標を日々意識し、少しずつ努力する小さな積み重ねが、とても大事だともおっしゃっていました。

そして、もう一つ子どもたちの心に響いたのは、早川さんのお話です。早川さんは、子どもたちと同じようにますやパンを食べて育ち、「自分もますやパンで美味しいパンを作りたい！」と夢を抱き、実現させたそうです。目の前に2人も夢を叶えた大人を見て、きっと子どもたちの夢を叶えることへの意欲が、一層増したのだと思います。杉山さん、早川さん、本当にありがとうございます！

一方、子どもたちが楽しみにしていた「ピザ作り」は、子どもたちの笑顔が溢れていました。自分達で栽培した野菜とますやパンの十勝産小麦！まさに地産地消の素晴らしさを体感した子どもたちでした。杉山さんも、地元食材を利用した食育活動を評価してくださって、お忙しいにもかかわらず、直々に指導してくださっています。また、豊成小学校の子どもたちは、「ルールを守って、美味しそうなピザを作りますね。」と、褒めてくださっていたそうです。限りのある食材をみんなで均等に分けられるように気を付けてトッピングすることや、指示をしっかりと聞き、正確に作業ができること、そして何より、感謝の気持ちをもって出来上がったピザをみんなで美味しく食べる姿を評価してくださったのだと思います。



そして、1年生と6年生の態度も素晴らしかったです。あんなにいいにおいがしていれば、授業にも影響が出てもおかしくないはず……。しかし、グッと我慢して真面目に授業を受けていたそうな……。(^^)

オール豊成のチームワークで『潤いと勢い』のある豊成小づくり

Connect



帯広市立豊成小学校
プロジェクト通信

メンター
メンティ

外国語

キャリア

体力向上

平成30年12月5日
NO.13 文責 小林

キャリア

一番大切なものに携われる喜び



11月29日(木)、齋藤農場の齋藤一成さんをお招きして、出前授業をして頂きました。齋藤さんをはじめとする豊成小学校に来て下さる農家の方々、食に携わる者としての責任やプライドをしっかりとって、安全で美味しい作物を消費者へ提供しようと日々努力をされている方々ばかりです。お忙しいにもかかわらず、こうやって足を運んで下さるのは、そういう思いを子どもたちに伝えることで、十勝の農業やこの環境に誇りを持ち、地域の魅力を道内外に発信できる大人になって欲しいという願いをもっておられるからです。

授業の冒頭では、まず、農業というものは、自分一人の働きで成立する者ではなく、たくさんの方々の協力があって成り立っているのだとお話

されていました。よい畑にするための暗渠(あんきょ)を建設関係の方々、作った作物を販売するためには、農協の方々、より多くの人に食べてもらうためには、運搬業者の方々、協力して頂かなければならないと話す齋藤さんからは、感謝の気持ちとその協力に応えようとする熱意のようなものを感じました。また、「農業は食という一番大切なものに携わることのできる素晴らしい仕事」であり、「誰かのために役に立っている喜びを感じることでできるやり甲斐のある仕事」だということを熱く語っておられました。自身の仕事に誇りを持ち、周囲への感謝を忘れない姿勢に、子どもたちは仕事や人との向き合い方をしっかりと感じる事ができたと思います。

最後に今後の夢を聞かれて、「作った小麦を直接パンやさんに卸したい。」とおっしゃっていました。「安全で美味しい十勝の小麦でパンを作りたい!」と願う本物の職人さんの熱い思いに応えるため、これからも努力を続けていくそうです。

～子どもたちの感想より～

ぼくは、「みんながいて農業がある」という言葉にとっても感動しました。ぼくの周りにもお母さんがいて、お父さんがいて、友達がいる、みんながいて、ぼくがいるということを改めて考えるきっかけになりました。十勝は、農業が栄えていて、とてもよい環境でぼくは生まれたんだなと思いました。ぼくも将来の夢を叶えたら、齋藤さんのように真剣に好きな仕事をがんばります。
(1組男子)

私は、齋藤さんの「仕事は大変だけど楽しいし、やりがいがある。」という言葉がとても心に残りました。私が初めて知ったことは、土にとってもこだわっていることです。私は、土にこだわるなんてすごいなあ、でも、それだけ美味しくおいしい物をつくっているんだなあと思いました。お話を聞いて、大変なことがあっても一生けん命努力し、それが楽しくやり甲斐のあることに変わるといいなあと思いました。
(2組女子)

私には、心に響いた言葉がありました。それは、「十勝で生まれ育ったことに誇りをもって生きる」という言葉です。私は、最初もう少し都会で生まれ育ちたかったなと、ずっと思っていました。この言葉を聞いてから「十勝は素晴らしいところなんだ!」と思うようになりました。十勝は、食べ物が美味しく最高です。齋藤さん、ありがとうございます!
(3組女子)

森閑川の生き物



子魚は一年か二三年か魚を育てる。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。

まはみもがフは、川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。



メシバ
 ① 川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。
 ② 川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。
 ③ 川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。



活動①

ボットは、ペットのボットを作ります。ペットのボットは、ペットのボットを作ります。ペットのボットは、ペットのボットを作ります。

1日目	2日目	3日目
1日目	2日目	3日目

3日間かけて、ペットのボットを作りました。

活動②

ぼくたちは、サリガニを育てました。サリガニは、川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。



活動④

まはみもがフは、川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。



だんがら、ボットのボットを作りました。ボットのボットは、ボットのボットを作りました。ボットのボットは、ボットのボットを作りました。

ウチダサリガニの育て方

- ① 暗い所に置く (明るくして、流れのきれいな所に置く)
- ② 草の所に置く (川ぎしに置く)
- ③ うしろに置く



ちせが、ボットのボットを作りました。ボットのボットは、ボットのボットを作りました。ボットのボットは、ボットのボットを作りました。

地いきの人や市役所の人

活動をして、川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。

まはみもがフは、川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。川がきれいで、水がきれいで、魚がすくすくと育つ。

外来種を守る活動

くじとホーム
②活動を始めました理由

わたしたちのチームは、ゆたがの勉強をしてい種がふえすぎていきまきた。こまき



のでチームでウチダザリガニをくじょして、もともらせらる川にしたいなと思



- 白川 さくらさん
- 平川 ゆいさん
- かがりさん
- あすおさん
- ななさん
- えささん
- とはさん
- おおさん
- 10人

活動① 外来種をくじょ



わたしたちのチームは、ゆたがの勉強をしてい種がふえすぎていきまきた。こまき

活動のよさをくじょしたよきから、ちいぎの人たちを協カしてほしいので、ホ

活動のまとめ

わたしたちは、ウチダザリガニをくじょして、もともらせらる川にしたいなと思

活動② ホスターを作って知らせる!!

ペアをくんでザリガニのくじょをしました。15匹くらいは、つかまえて、思っていたおつかまえてもくじょをしました。そこでは、いえなくて、ちいぎの人によりかけて、外来種をへらすのを、てつたためには3つのやくそくがある

- ① 入れない
- ② すてない
- ③ ひろげない



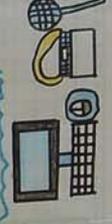
です。

ちいぎの市役所

① 日本ザリガニは、2年ほど前、てしまうがもし、おまかせん。なめて、(年)に(多)回(日)に(方)法(め)て(き)か(ん)に(集)ま(り)、(く)い、(を)3(年)生(と)一(緒)に(し)て(ほ)しいです。

② 外来種は、8つの国から来る物です。なので、外国の人にもつたえたいです。帯広市のホームページにわたしたちのねがいをのせてもらえれば、とてもうれしいです。

ごきょうりょくをお願いします。



外来種をへらしをす ざらう。

ザリガニがニくじょうム

活動を始めた理由

ぼくたちは、川に入、てくじょうを
することになりました。
くじょうのヤリガニは、あみでおいこみや
すみも足で、てあみを入るとガリ
が二か入ることもありま
す。か、は、

1回目	せんせいが
2回目	ポスターを
3回目	ばんばん成

でした。2回目を書いてある通り、
全然取れなかったのポスター作り
にしました。

メンバー

人数
リッキー、ダニー、アリス、ジョー、
ふまの、あけ、ほの、の、あ、め、い、
さ、は、

活動① ざい来種をふやそう。

わしたちは、川に入、てくじょうを
することになりました。
くじょうのヤリガニは、あみでおいこみや
すみも足で、てあみを入るとガリ
が二か入ることもありま
す。か、は、

1回目	せんせいが
2回目	ポスターを
3回目	ばんばん成

活動② ポスターをかこう!

くじょうで、数が少なかったのポスターを書くことにした。
ポスターでは、がららんにかんする三つのやくそくを書きました。

1. 入れない
2. すぐない
3. ひろげない

この3つをポスターに書いて、知らせた。

アライグマ	カラス	クマ	ツバメ	ハチ	シロアリ
カラス	クマ	ツバメ	ハチ	シロアリ	クマ

外来種 ~~クマ~~

活動のまとめ

わたしが二つをあげました。
りして、あまじょしません
した。そこでわした
は、外来種を入れない。外来
種をひろげないというこ
とをつたえて、外来種につ
いて正しい知識を持って
もらうためのポスターを作りました。



市役所、地いきの方に おねがいしたいこと

① 三つのやくそくの入れ
ない、すぐない、ひろげ
ないを、三年生だけでは、
たくさんの人につたえら
れないので、手つだて
下さい。

② きがさん二川には、あふ
ないゴミがたたくさん一ヶ月
に、一回ゴミひろい活動し
が出来ます。おねがい
します。



木炭関庫の川をきれいに するために。

チーム名 ゴミへらしたい
○活動を始めました理由

わたしたちは、川をきれいにするためにゴミひろいをしました。川、草むら、橋の所で、ゴミひろいをすると、川の所より草むらや橋のそばがきれいになります。ナラスナックや食べ物やたばこやきゅうり、新聞紙、てっぴん、ぎんね、しぜんの木ではない木リンガルなどひろうことができました。2時間で50こぐらゐのごみをひろうことができました。わたしたちが、ひろった所だけで、こんなにあったので川全体ではもっとたくさんあると思います。ゴミをすてる人がたくさんいることがわかったので、ゴミをすてるようにポスターを作りました。

ことがわかりました。1年には川にゴミも少ない川にしたいのでポスターを作りました。

石戸谷	わかた
中島	あま
小野	あ
中野	りこ
中野	のりか



まとめ

わたしたちのチームはゴミをひろったので、川をきれいにしました。ゴミをひろうと、川の所より草むらや橋のそばがきれいになります。ナラスナックや食べ物やたばこやきゅうり、新聞紙、てっぴん、ぎんね、しぜんの木ではない木リンガルなどひろうことができました。2時間で50こぐらゐのごみをひろうことができました。わたしたちが、ひろった所だけで、こんなにあったので川全体ではもっとたくさんあると思います。ゴミをすてる人がたくさんいることがわかったので、ゴミをすてるようにポスターを作りました。

ちいきの人に
おねがひしたいこと
市役所

①きかんこの川にはゴミが多くて、3年生だけで活動してゴミをひろうのはむづかしいので、ちいきの人にゴミをひろってほしいです。
②私はポスターも作りました。子どもが作った物なので、きれいな物もあってほしいです。

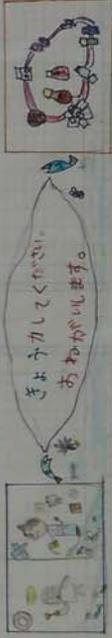


活動① ゴミひろいをしよう

わたしたちは、川をきれいにするためにゴミひろいをしました。川、草むら、橋の所で、ゴミひろいをすると、川の所より草むらや橋のそばがきれいになります。ナラスナックや食べ物やたばこやきゅうり、新聞紙、てっぴん、ぎんね、しぜんの木ではない木リンガルなどひろうことができました。2時間で50こぐらゐのごみをひろうことができました。わたしたちが、ひろった所だけで、こんなにあったので川全体ではもっとたくさんあると思います。ゴミをすてる人がたくさんいることがわかったので、ゴミをすてるようにポスターを作りました。

活動② ポスターを作ろう!

次に、ポスターを作ることにしました。まず、題名を考え、上に大きく書きましました。そして、まん中に内よを書きました。たとえ、ゴミの写真をまわりを赤いテープでかこび、目立つようにしたり、いい方に○を書いたり、だめな方に✕を書いたりしました。次に、ゴミの写真をはりました。そして、さいごに、「ぎょうりょくしてください。よろしくおねがひします」と、よびかけのメッセージを書きました。



ぎょうりょくしてください。
おねがひします。



さかんこの いさものを とりもどすために

ちいさなためゆびん
活動を始めた理由
ぼくたちは、おがのこの川を調査した。この川には、いろいろな生き物が住んでいる。でも、最近、川の水が汚れて、生き物が死んでしまっている。これを直すために、私たちは、いろいろな生き物をとりもどす活動をした。



そこの水は、きれいで、魚が住んでいる。でも、最近、川の水が汚れて、魚が死んでしまっている。これを直すために、私たちは、いろいろな生き物をとりもどす活動をした。

メソバ

リナーズ
ふりー
そめと
えいさ
かひ

活動① サラシ

サラシは、川の水をきれいにするために使われる。でも、最近、川の水が汚れて、サラシが役に立たなくなっている。これを直すために、私たちは、いろいろな生き物をとりもどす活動をした。

サラシは、川の水をきれいにするために使われる。でも、最近、川の水が汚れて、サラシが役に立たなくなっている。これを直すために、私たちは、いろいろな生き物をとりもどす活動をした。

二人の感想

二人は、この活動を通して、川の水がきれいになったことを実感した。また、いろいろな生き物をとりもどす活動を通して、川の水がきれいになることを実感した。

活動② 作り

作りは、川の水をきれいにするために使われる。でも、最近、川の水が汚れて、作りが役に立たなくなっている。これを直すために、私たちは、いろいろな生き物をとりもどす活動をした。

作りは、川の水をきれいにするために使われる。でも、最近、川の水が汚れて、作りが役に立たなくなっている。これを直すために、私たちは、いろいろな生き物をとりもどす活動をした。

この小学校が、この活動を通して、川の水がきれいになったことを実感した。また、いろいろな生き物をとりもどす活動を通して、川の水がきれいになることを実感した。

活動③ まて

まては、川の水をきれいにするために使われる。でも、最近、川の水が汚れて、まてが役に立たなくなっている。これを直すために、私たちは、いろいろな生き物をとりもどす活動をした。

まては、川の水をきれいにするために使われる。でも、最近、川の水が汚れて、まてが役に立たなくなっている。これを直すために、私たちは、いろいろな生き物をとりもどす活動をした。

この活動を通して、川の水がきれいになったことを実感した。また、いろいろな生き物をとりもどす活動を通して、川の水がきれいになることを実感した。

いろいろな生き物をとりもどす活動をした。川の水がきれいになったことを実感した。

市役所のみなさんへ

市役所のみなさんへ、川の水がきれいになることを願っています。また、いろいろな生き物をとりもどす活動を通して、川の水がきれいになることを願っています。

ニホンザリガニをふやすために。



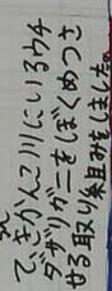
ウチダザリガニに比べ、キーン

●活動カを始めた理由

ぼくたちは、今まで、水につなうさぎが、この川の生きものをくらべてきました。さかたには、とびきりきれいな川に住む生きものがたくさんいるのと同じ時に、ウチダザリガニが、



ま、この生牛乳がたぐさんいることがわかってきました。ウチダザリガニがニホンザリガニとや色々なざいらしいのすみかをうばっているのがあつてびっくりしました。そこで、ぼくたちは、ウチダザリガニをいっしょに、ニホンザリガニと比べて、生きたものをふやして、守り、いきまわりたいと



で、さかたに川にいます。ウチダザリガニをふくめつさがる取り集めをしました。

リーダーがや 12人
リーダーがたける



●活動①しかけを作った

ぼくたちは、ペットボトルを使って、川を掃除しました。作りました。作りました。作りました。



2匹	1匹	3匹	6匹
2匹	1匹	3匹	6匹

3日間で合計6匹つかまることができました。おかげで、川がきれいになりました。おかげで、川がきれいになりました。おかげで、川がきれいになりました。

●活動②のまとめ

ぼくたちは、川を掃除しました。おかげで、川がきれいになりました。おかげで、川がきれいになりました。おかげで、川がきれいになりました。

●活動カ2 たぐさんふやすには1000

ぼくたちは、川を掃除しました。おかげで、川がきれいになりました。おかげで、川がきれいになりました。おかげで、川がきれいになりました。

●活動③の人にお願ひ

- ① ちいきの人全員で、あみでウチダザリガニを楽しくとるイベントを、きかしてほしいです。そぼくたちも、いっしょにがんばりたいと思います。
- ② ウチダザリガニや外来種を川にはなさないでほしいとよびかけてほしいです。



機関庫の川を活用した総合的な学習の時間（河川学習を通して自分達と環境とのつながりを考える）

①「環境改善のために駆除したザリガニを堆肥化して活用する活動を通して命のつながりを考える。」 ②「十勝の自然環境やそこに生きる人々から十勝の素晴らしさや生き方を学ぶ。」

- 「総合的な学習の時間」の目標：「学習を通して自ら課題を見付け、意欲的に学び、自己の生き方につなげる力を育成する」
 - 「環境教育」の目標：「身近な環境や環境問題に関心を持ち、自然環境と人間のかかわりについて理解を深め、環境への責任ある行動がとれる児童の育成に努める」
- 本校では、上記の目標にキャリア教育の視点を取り入れ、各単元の「付けさせたい力」を明確にすることで、子どもたちがしっかりとした目的をもって活動に臨むことができるように努めている。また、学校裏の「機関庫の川」を学習材としたり、文教ゾーンや地域人材を活用した活動を多く取り入れたりとすることで、地元十勝に誇りと愛着を持ち、この恵まれた環境を守っていかようとする高い志をもった人材の育成を目指している。

6年生 生き方

・『働くことについて』の単元と関連し、農業を支えるきれいな水や健康な土の大切さを学びながら、農家としての生き方や考え方を学ぶ。
【協力機関：長芋農家齊藤氏】
(キャリア観点：課題対応能力、キャリアプランニング能力)

・『十勝の農業』の単元と関連し、自分達で育てた野菜と道産小麦を使ってピザ作りを行うことで、地産地消の意味や北海道の恵まれた環境について学ぶ。
【協力機関：ますやパン杉山氏】
(キャリア観点：課題対応能力、キャリアプランニング能力)

5年生 産業

・『十勝の農業』の単元と関連し、ザリガニ堆肥を使った野菜栽培を行ったり、農業の課題や実情について学んだりする。
【協力機関：市役所農政課、JAかわにし青年部】
(キャリア観点：課題対応能力、キャリアプランニング能力)

5年生 産業

・『十勝の農業』の単元と関連し、ザリガニ堆肥の効果の検証実験を行うことで、その有効性と命の繋がりを実感し、次年度への意欲を高める。
(キャリア観点：課題対応能力)

・『十勝の農業』の単元と関連し、玉ねぎ農家の中村さんから畑を借り、実際に栽培体験をさせて頂く。また、ごぼう農家の和田さんからは、安全で健康な野菜を消費者に届けるために、健康な土ときれいな水、十勝の恵まれた環境の大切さを学ぶ。最後に、収穫した野菜でカレーを作り、お世話になった方々を招いての「感謝の集い」を行う。
【協力機関：玉ねぎ農家中村氏、ごぼう農家和田氏】
(キャリア観点：課題対応能力、キャリアプランニング能力)

4年社会

・「水はどこから」の単元で、自分達の飲料水と機関庫の川とのつながりを調査する。
(キャリア観点：課題対応能力)

4年生 郷土

・『地域のすてき発見』の単元と関連し、地域のよさについて調べたり、十勝の基幹産業である農業に因んで、ザリガニ堆肥を使った野菜栽培を行ったりする。
(キャリア観点：課題対応能力)

3年生 環境「機関庫の川と友達」

・学校の住所「清流」の由来から、機関庫の川の生き物観察や水質調査を行い、川の環境について考える。
1【協力機関：帯広開発建設部・帯広NPO林一社】
(キャリア観点：課題対応能力)

・清流を維持し、昔のようにホタルが棲む川にするために、自分達にできることは何かを考える。(ホタル観賞会での学習成果の発表→児童、保護者、地域住民対象)
2【協力機関：小さな大自然の店】
(キャリア観点：課題対応能力)

・環境改善のためにウチダザリガニの駆除活動を行うとともに、試食することで命の尊さを学ぶ。
3【協力機関：多自然ネット(アーク・ホーレーション)】
(キャリア観点：自己理解・自己管理能力)

・機関庫の川の環境を守るための発信活動を行う。
4 (キャリア観点：課題対応能力)

行政・町内会・PTAへの提言

3年理科

・学年の教材園を利用し、ザリガニ堆肥を使った野菜栽培活動を行う。また、十勝の特産品である「ジャガイモ」について、農業高校の生徒さんから栄養素や栽培方法などを学ぶ。
【北海道帯広農業高等学校】
(キャリア観点：課題対応能力、キャリアプランニング能力)

1,2年生 生活科

・「機関庫の川」の学習を通して、季節や生き物とのふれあいを楽しむ。(駆除活動を含む)
・帯広北高等学校のお兄さん、お姉さんに生き物の名前を教わったり、一緒に生き物を採取したりして交流を深める。
【協力機関：帯広北高等学校】
(キャリア観点：人間関係形成・社会形成能力)

6年生 理科

・『生き物のつながり』の単元と関連し、学校園で栽培する野菜作りの肥料として、駆除したウチダザリガニを使った堆肥作りをする。
【協力機関：帯広北高等学校 濱先生】
(キャリア観点：課題対応能力)

全学年 道徳

・『命の尊さ』に関わって、駆除したウチダザリガニの命が、自分達で作る野菜の栄養となったり、それを食べる自分達の命を支えたりしている「命のつながり」について考える。
(キャリア観点：自己理解・自己管理能力)

1,2年 生活科

・各学年の教材園を利用し、ザリガニ堆肥を使った野菜栽培活動を行う。
(キャリア観点：課題対応能力)

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2018-7212-003	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	北海道帯広市立豊成小学校 沼田拓己

主な実施箇所

機関庫の川 札内川

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。

※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。

(縮尺は1/50万～1/100万程度)

助成事業の主な実施箇所



★ 機関庫の川は、校地内

★ 札内川は、徒歩 15 分程度

